

dF-m1断層の確認データ

〔本編資料2.2.1章に関する基礎データ〕

- ボーリングの地質柱状図及びコア写真(7孔)(P.2-42~P.2-48参照)
- 断層の方向性(IT-66-e孔ボアホールテレビューア画像)(P.2-49参照)



2.5 dF-m1断層の確認データ(2/9)

S-501孔

孔名: S-501		孔口標高: T.P. -1.92m		掘削長: 275.00m (10-8)																		
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状 図	地層 名	地質 名	岩盤 区分	色 調	コア	最大	R	記事											
								採取 率 0(%)100	コア長 0(cm)100	QD 0(%)100												
210			*****		軽石凝灰岩	ptf	灰白・白/灰	100	68	94	210.80m~211.40m:シルト岩がブロック状に含まれる。											
211			*****				100	100	100													
212	212.75	-214.67	*****				100	52	100													
213			*****		シルト岩	st(O)	灰黒	100	43	85												
214			*****				100	100	100													
215			*****				100	32	67													
216	216.55	-218.27	*****		軽石凝灰岩	ptf	白/灰	100	25	90	216.55m~218.27m:シルト岩											
217	218.65	-219.57	*****		シルト岩	st(O)	灰黒	100	25	90												
218			*****				100	38	43													
219			*****		酸性凝灰岩	atf	灰白	100	19	53	223.13m~223.17m:酸性凝灰岩が分布する。											
220	230.43	-222.35	*****				100	17	64													
221			*****		シルト岩	st(O)	灰黒	100	43	81												
222			*****				100	36	58													
223	223.27	-225.19	*****		シルト岩/酸性凝灰岩	st(O)/atf	灰黒・灰白	100	77	100												
224	223.68	-225.60	*****				100	27	88													
225			*****	大間層				100	17	37	228.48m付近:傾斜角約40°~約80°、破碎幅約70cmの断層(dF-a)がある。											
226			*****		酸性凝灰岩	atf	灰白	100	16	48												
227			*****				100	8	0													
228	228.30	-230.22	*****				100	5	0													
229			*****				100	49	48													
230			*****				100	50	61													
231			*****		軽石凝灰岩	ptf	灰白/淡青灰	100	50	61	233.13m~233.17m:酸性凝灰岩が分布する。											
232			*****				100	84	84													
233			*****				100	96	96													
234	233.79	-235.71	*****		酸性凝灰岩	atf	灰白	100	40	66												
235	234.47	-236.39	*****				100	21	32													
236			*****		シルト岩	st(O)	灰黒	100	19	47	236.58m~236.65m:酸性凝灰岩が分布する。											
237			*****				100	14	29													
238	237.98	-239.90	*****		軽石凝灰岩	ptf	灰白/淡青灰	100	41	52												
239	238.25	-240.17	*****		シルト岩	st(O)	灰黒	100	32	86												
240			*****				100	21	53													



228.48m
dF-m1断層

S-501孔 コア写真(深度225m~235m)

- S-501孔の深度228.48mにおいて、大間層の酸性凝灰岩と軽石凝灰岩との境界にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、粘土質物質を含む破碎部から成り、破碎幅は約70cm*である。

*: 酸性凝灰岩と軽石凝灰岩の接する部分では、破碎部は厚い傾向がある。

注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。

注2) 柱状図記事欄の深度228.48mに記載している「断層(dF-a)」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。

S-501孔 地質柱状図(深度210m~240m)

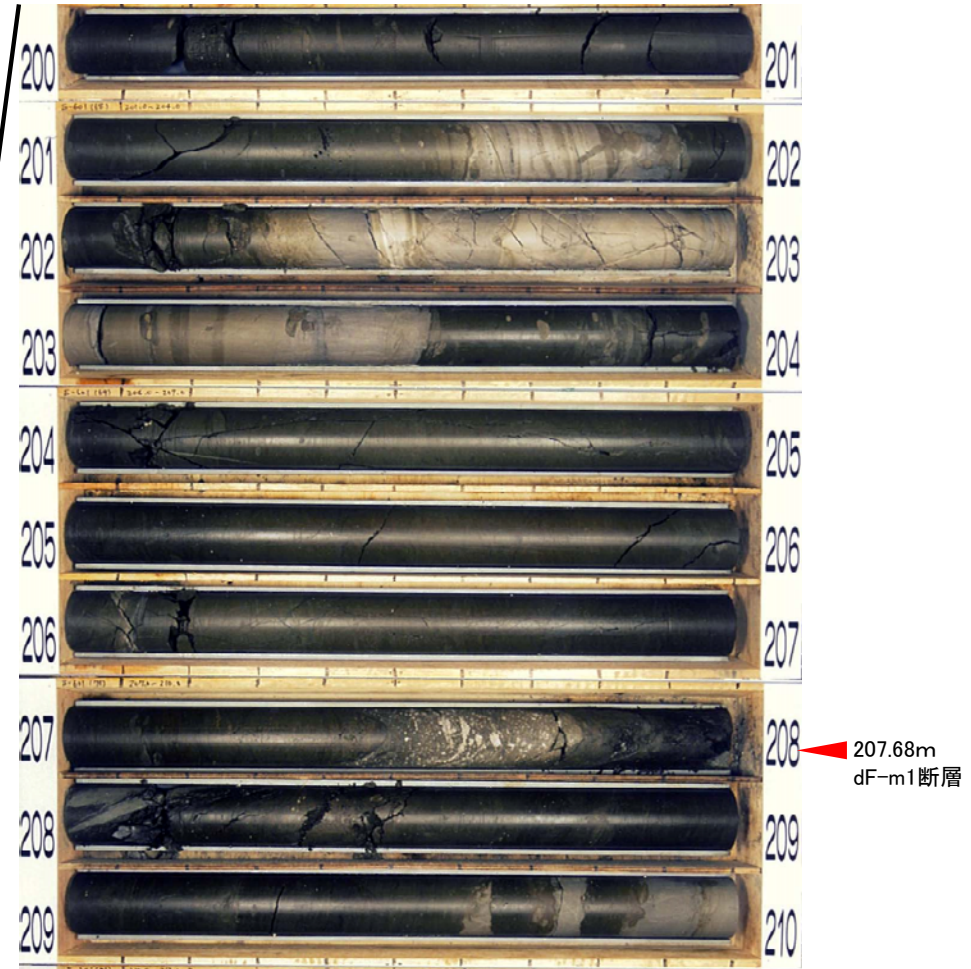


2.5 dF-m1断層の確認データ(3/9)

S-601孔

孔名: S-601		孔口標高: T.P. -2.51m		掘削長: 251.00m (9-7)							
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
180					シルト岩	st	暗緑灰	100	24	57	
181								100	28	85	
182								100	28	75	
183								100	51	87	
184								100	22	75	
185								100	44	88	
186	186.65	189.16	※※					100	39	75	
187	187.35	189.96	※※		酸性凝灰岩	atf	灰白・灰	100	31	75	
188								100	34	58	
189					シルト岩	st	暗緑灰	100	70	100	189.65m~189.70m:酸性凝灰岩が分布する。
190								100	50	96	
191	191.58	194.09			粗粒凝灰岩	etf	灰	100	46	100	
192	191.78	194.29						100	50	70	
193					シルト岩	st	暗緑灰	100	25	75	192.77m~197.82m:酸性凝灰岩が分布する。
194								100	25	82	
195	191.61	197.12	※※※	大間層	酸性凝灰岩	atf	灰白・灰	100	65	93	
196	193.21	197.72	※※※					100	65	93	
197	198.90	199.41	※※※		シルト岩	st	暗緑灰	100	30	67	
198			※※※		酸性凝灰岩	atf	灰白・灰	100	68	91	
199	199.02	201.53	※※※					100	19	79	
200								100	46	93	
201	201.60	204.11	※※		シルト岩	st	暗緑灰	100	29	91	
202	201.90	204.41	※※		酸性凝灰岩	atf	灰白・灰	100	39	87	
203	202.20	204.81	※※		シルト岩	st	暗緑灰	100	13	13	
204	203.55	206.06	※※		酸性凝灰岩	atf	灰白・灰	100	82	94	
205								100	30	80	
206					シルト岩	st	暗緑灰	100	46	96	
207	207.49	210.00						100	81	81	
208	207.77	210.28			軽石凝灰岩	ptf	灰白・白/灰	100	74	87	207.68m:傾斜角約60°~約75°、破砕幅約4cmの断層(dF-a)が分布する。
209	209.62	212.13			シルト岩	st	暗緑灰	100	50	74	
210	209.90	212.31			シルト岩/酸性凝灰岩	st/atf	灰白・暗緑灰	100	42	100	

S-601孔 地質柱状図(深度180m~210m)



S-601孔 コア写真(深度200m~210m)

- S-601孔の深度207.68mにおいて、大間層の軽石凝灰岩とシルト岩との境界にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、粘土質物質を含む破砕部から成り、破砕幅は約4cm*である。

*: シルト岩と軽石凝灰岩の接する部分では、破砕部は薄い傾向がある。
 注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。
 注2) 柱状図記事欄の深度207.68mに記載している「断層(dF-a)」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。

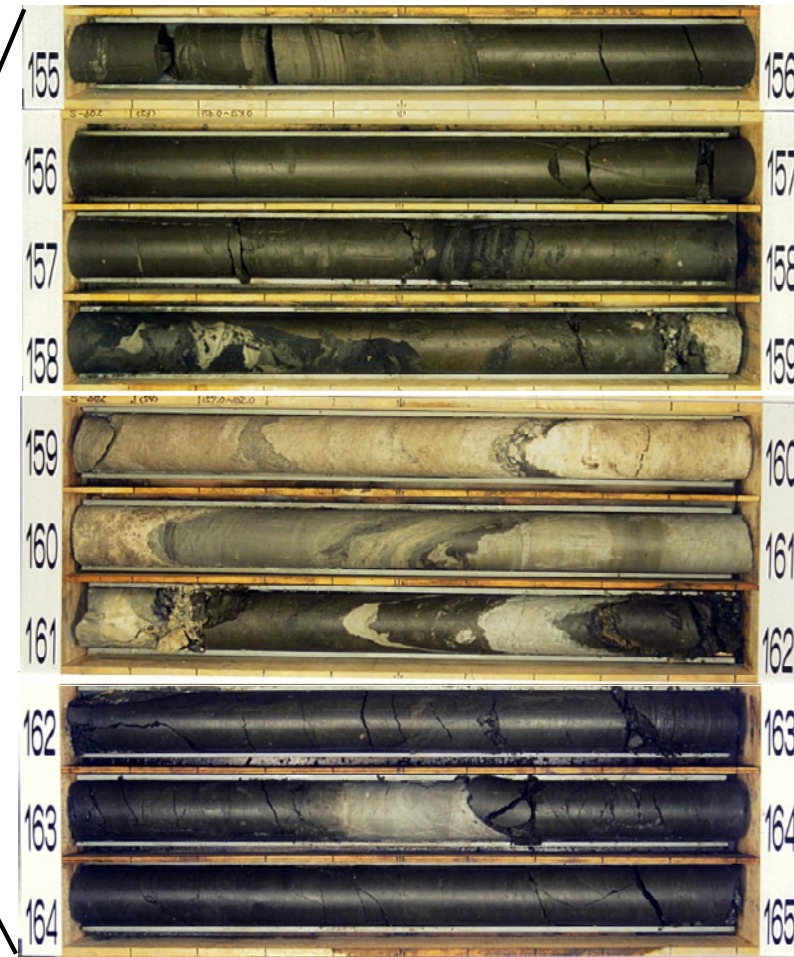


2.5 dF-m1断層の確認データ(4/9)

S-602孔

孔名: S-602		孔口標高: T.P. -1.80m		掘削長: 305.00m (11-6)							
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
150					シルト岩	st	暗緑灰	100	43	93	
151								100	25	65	
152								100	24	63	
153								100	22	53	
154								100	20	41	
155	155.27	157.07			粗粒凝灰岩	caf	灰	100	20	94	
156	156.82	157.42			シルト岩	st	暗緑灰	100	47	87	
157	157.90	159.30			層灰色火山噴出物 層灰色火山噴出物 シルト岩	dht/dst	黒/灰黒	100	27	63	
158	158.22	160.30			層灰色火山噴出物 層灰色火山噴出物	dht/dst	黒/灰黒・暗緑灰	100	16	69	
159	158.90	160.70			シルト岩 層灰色火山噴出物	st/dst	灰・灰白 黒/暗緑灰・灰黒	100	30	73	
160					酸性凝灰岩	ast	灰白	100	52	100	
161	161.15	162.95			シルト岩	st	暗緑灰	100	46	72	
162	161.40	163.30			酸性凝灰岩/シルト岩	ast/st	灰白・暗緑灰	100	23	73	161.91m: 傾斜角約70° ~約80°, 破砕幅約1cm~約2cm* 断層(dF-a)がある。
163	161.73	163.53			シルト岩	st	暗緑灰	100	23	73	
164	163.40	165.20			酸性凝灰岩	ast	灰白	100	20	38	
165	163.61	165.41						100	20	60	
166					シルト岩	st	暗緑灰	100	52	71	165.15m~165.50m: 酸性凝灰岩質である。
167	167.40	169.20			酸性凝灰岩	ast	灰白	100	19	31	
168	167.60	169.40			軽石凝灰岩	psr	灰白・暗緑灰	100	41	84	
169	168.02	169.82			シルト岩	st	暗緑灰	100	14	25	
170	169.50	171.30						100	32	60	
171					酸性凝灰岩	ast	灰白	100	9	0	
172	171.49	173.29						100	39	85	
173					シルト岩	st	暗緑灰	100	50	100	
174	173.62	175.42			酸性凝灰岩	ast	灰白	100	60	87	
175	174.00	175.80			シルト岩	st	暗緑灰	100	91	91	
176	174.54	176.34			酸性凝灰岩	ast	灰白	100	38	65	
177	176.37	177.17						100	38	65	
178					シルト岩	st	暗緑灰	100	71	100	
179								100	44	99	
180								100	20	70	

S-602孔 地質柱状図(深度150m~180m)



S-602孔 コア写真(深度155m~165m)

- S-602孔の深度161.91mにおいて、大間層のシルト岩中にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、粘土質物質を含む破砕部から成り、破砕幅は約1cm ~約2cm*である。

*: シルト岩中では、断層面は密着し破砕部は認められない又は破砕部は薄い傾向がある。

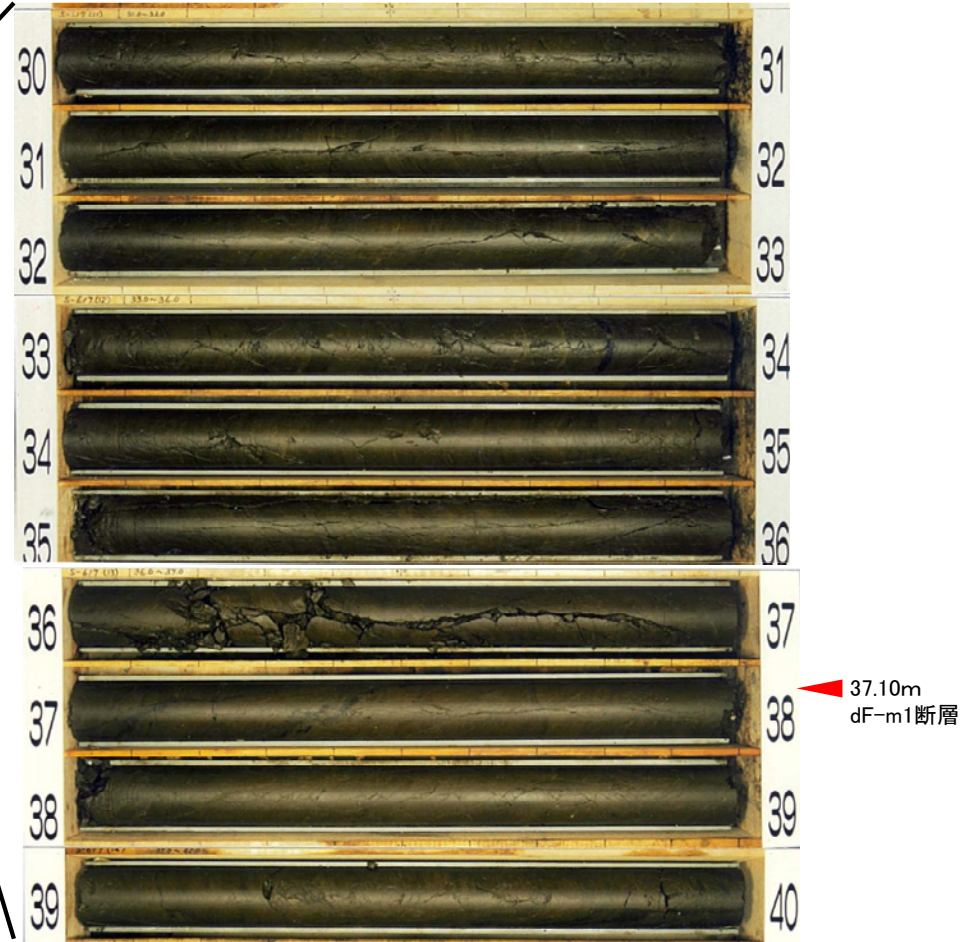
注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。
注2) 柱状図記事欄の深度161.91mに記載している「断層(dF-a)」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。



2.5 dF-m1断層の確認データ(5/9)

S-617孔

孔名: S-617		孔口標高: T.P.-2.71m		掘削長: 60.00m (2-2)							
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
30								100	100	100	
31								100	59	100	
32								100	100	100	
33								100	58	99	
34								100	68	95	
35								100	80	95	
36								100	17	80	
37								100	78	91	37.10m: 傾斜角約20°の断層(dF-a)がある。破砕部は認められない。
38								100	98	99	
39								100	59	100	
40								100	59	89	
41								100	41	90	
42								100	41	83	
43								100	100	100	
44					シルト岩	st	暗緑灰	100	47	96	
45				大間層				100	63	91	
46								100	96	96	
47								100	88	97	
48								100	100	100	
49								100	98	98	
50								100	37	76	
51								100	42	73	
52								100	29	81	
53								100	41	90	
54								100	61	100	
55								100	18	45	56.08m~56.10m: 暗緑色泥岩が分布する。
56								100	60	96	
57								100	61	96	
58	57.80	-60.51			暗緑色泥岩	anf	灰	100	61	96	
59	58.17	-60.88			シルト岩	st	暗緑灰	100	61	96	
60	59.24	-61.95			暗緑色泥岩/シルト岩	anf/st	灰・暗緑灰	100	68	97	
61	60.00	-62.71									



S-617孔 コア写真(深度30m~40m)

- S-617孔の深度37.10mにおいて、大間層のシルト岩中にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、密着し、破砕部は認められない*。

*: シルト岩中では、断層面は密着し破砕部は認められない又は破砕部は薄い傾向がある。
 注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。
 注2) 柱状図記事欄の深度37.10mに記載している「断層(dF-a)」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。

S-617孔 地質柱状図(深度30m~60m)

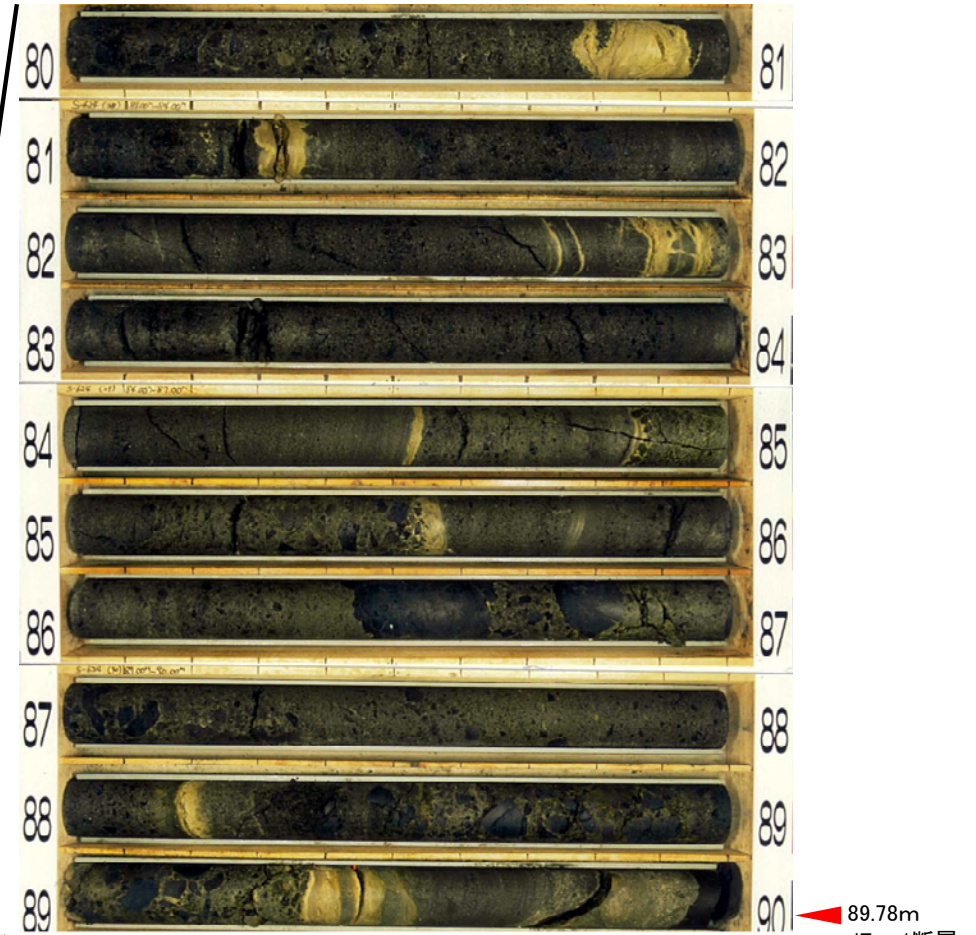


2.5 dF-m1断層の確認データ(6/9)

S-624孔

孔名: S-624		孔口標高: T.P. -5.99m		掘削長: 170.00m (6-3)							
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
60			△△△		安山岩部岩 (角礫状)	bhv	黒/暗黄灰	100	97	97	
61	61.33	-67.32	△△△					100	22	87	
62			△△△					100	30	94	
63			△△△					100	53	100	
64			△△△					100	31	94	
65			△△△					100	35	100	
66			△△△					100	49	99	
67			△△△					100	63	94	
68			△△△					100	66	100	
69			△△△					100	35	75	
70			△△△					100	38	97	
71			△△△					100	40	100	
72			△△△					100	20	72	
73			△△△					100	25	100	
74			△△△					100	82	82	
75			△△△	易国間層 下部層				100	32	91	
76	76.04	-82.03	△△△		粗粒凝灰岩/粗粒凝灰岩	bl/cst	黄灰-灰	100	30	76	76.00m~76.04m: 黒色の急冷河成相が認められる。 76.04m~76.36m: 粗粒凝灰岩が分布する。 76.29m: 厚さ約1.3cmのシームがある。 76.42m~76.45m: 粗粒凝灰岩が分布する。 76.43m: 厚さ約0.5cmのシームがある。
77	76.48	-82.44	△△△		粗灰色火山礫凝灰岩	bl/f	黒/黄灰	100	49	95	
78	77.56	-83.55	△△△		安山岩部岩 (角礫状)	bhv	黒/黄灰	100	81	100	
79	78.51	-84.50	△△△		粗灰色火山礫凝灰岩	bl/f	黒/黄灰-暗灰	100	34	87	79.37m: 厚さ約1.8cmのシーム(S-6)がある。
80	79.28	-85.27	△△△		粗粒凝灰岩	bl	黄灰	100	55	89	81.29m~81.36m: 粗粒凝灰岩が分布する。
81	79.43	-85.42	△△△					100	67	95	
82			△△△					100	34	94	82.89m付近, 82.95m付近: 厚さ約3cmの粗粒凝灰岩が分布する。
83			△△△					100	27	84	84.53m: 厚さ約1cmの粗粒凝灰岩が分布する。
84			△△△					100	36	74	85.54m: 厚さ約0.5cmの粗粒凝灰岩が分布する。
85			△△△					100	69	91	
86			△△△					100	86	96	
87			△△△					100	71	100	88.18m~88.21m: 粗粒凝灰岩が分布する。 88.19m: 厚さ約0.3cmのシームがある。 89.43m~89.47m: 粗粒凝灰岩が分布する。 89.45m: 厚さ約0.2cmのシーム(S-2)がある。
88	88.30	-94.29	△△△		安山岩部岩 (角礫状)	bhv	黒/黄灰-暗灰	100	36	100	89.78m: 傾斜角約60°の断層(dF-a)がある。破砕部は認められない。
89	89.37	-95.36	△△△		粗粒凝灰岩/粗粒凝灰岩	bl/cst	灰-黄灰	100	35	100	
90			△△△								

S-624孔 地質柱状図(深度60m~90m)



S-624孔 コア写真(深度80m~90m)

89.78m
dF-m1断層

- S-624孔の深度89.78mにおいて、易国間層の粗粒凝灰岩中にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、開口し、破砕部は認められない*。

*: 粗粒凝灰岩中では、破砕部は認められない又は薄い傾向がある。

注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。
注2) 柱状図記事欄の深度89.78mに記載している「断層(dF-a)」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。



2.5 dF-m1断層の確認データ(7/9)

S-702孔

孔名: S-702		孔口標高: T.P.-2.02m		掘削長: 274.60m (10-3)							
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
60								100	76	90	
61								100	64	100	61.63m付近:厚さ約2cmの粗粒凝灰岩が分布する。
62								90	19	60	
63								100	100	100	
64					シルト岩	st	暗緑灰	100	40	90	63.88m:断層(dF-a)がある。破砕部は認められない。
65								100	17	37	
66								100	65	80	
67								100	29	85	68.50m~68.57m:酸性凝灰岩が分布する。
68								100	100	100	
69								100	70	100	70.50m~70.89m:方位を伸う不連続面がある。見掛けの鉛直方位量は約23cm。
70	70.36	-72.38			酸性凝灰岩	atf	灰・灰白	100	64	95	71.49m付近:厚さ約5cmの粗粒凝灰岩が分布する。
71	70.89	-72.91	茶 茶 茶					100	35	100	
72								100	100	100	
73								100	32	64	72.45m~72.78m:酸性凝灰岩が分布する。
74								100	53	100	72.60m~72.76m:方位を伸う不連続面がある。見掛けの鉛直方位量は約20cm。
75				大間層	シルト岩	st	暗緑灰	100	29	68	72.95m~73.11m:酸性凝灰岩が分布する。
76								100	50	88	
77								100	65	100	
78								100	80	100	
79	79.44	-81.46	茶 茶 茶		酸性凝灰岩	atf	灰白	100	44	90	
80	79.64	-81.66	茶 茶 茶					100	80	90	
81								100	61	95	81.10m~81.22m:酸性凝灰岩が分布する。
82								100	100	100	
83								100	31	95	
84					シルト岩	st	暗緑灰	100	37	100	
85								100	80	90	
86								100	66	100	
87								100	44	83	
88								100	25	70	
89								100	71	100	89.70m~89.87m:酸性凝灰岩が分布する。
90								100	71	100	89.70m~90.00m:方位を伸う不連続面がある。見掛けの鉛直方位量は約4cm。



63.88m
dF-m1断層

S-702孔 コア写真(深度60m~70m)

- S-702孔の深度63.88mにおいて、大間層のシルト岩中にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、密着し、破砕部は認められない*。

*: シルト岩中では、断層面は密着し破砕部は認められない又は破砕部は薄い傾向がある。

注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。

注2) 柱状図記事欄の深度63.88mに記載している「断層(dF-a)」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。

S-702孔 地質柱状図(深度60m~90m)



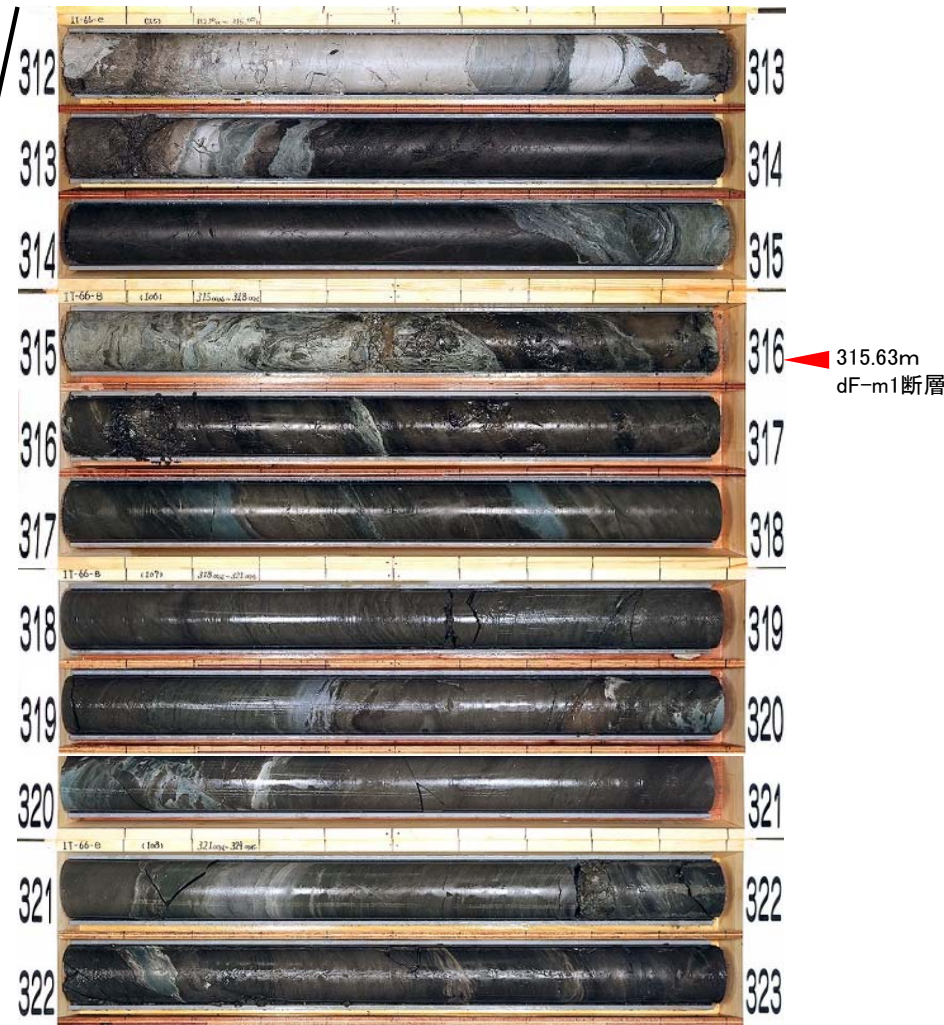
2.5 dF-m1断層の確認データ(8/9)

IT-66-e孔

孔名: IT-66-e 孔口標高: T.P.2.91m(傾斜角69.8°)掘削長: 331.00m (12-11)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
								0	100			
300					シルト岩	stf	灰黒	100	51	100		303.27m~303.31m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 303.49m~303.51m: 酸性凝灰岩が分布する。 303.50m: 厚さ約2.0mのシーム(S-Cm)がある。 304.45m~304.47m: 酸性凝灰岩が分布する。 304.71m~304.76m: 酸性凝灰岩が分布する。 305.10m~305.13m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。
301							100	55	100			
302							100	81	100			
303							100	33	98			
304							100	61	100			
305	305.18	283.50	※※※※※※※※※※		酸性凝灰岩	atf	灰	100	57	100		
306			※※※※※※※※※※				100	41	100			
307			※※※※※※※※※※				100	47	97			
308	308.63	286.71	※※※※※※※※※※		シルト岩	stf	灰黒	100	36	71		
309	308.92	287.01	※※※※※※※※※※		酸性凝灰岩	atf	灰白	100	44	89		
310			※※※※※※※※※※				100	37	80			
311	311.19	289.14	※※※※※※※※※※		シルト岩	stf	緑灰/淡青灰	100	16	26	311.19m: 見掛けの傾斜角約30°~約45°の方位を伴う不連続面がある。破碎幅約47cmで、310.95m~311.01m間では幅約4.0cm~約9.0cmの粘土質物質を挟む。	
312	312.87	290.72	※※※※※※※※※※	大間層	酸性凝灰岩	atf	灰白	100	14	37	312.87m~312.98m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 313.29m~313.33m: シルト岩をブロック状に含む。	
313	313.16	290.99	※※※※※※※※※※		シルト岩	stf	灰黒	100	43	76		
314	313.38	291.19	※※※※※※※※※※		酸性凝灰岩	atf	灰黒	100	49	69	315.63m: 見掛けの傾斜角約50°~約60°の断層がある。破碎幅は約66cmである。近傍のボーリングとの対比からdF-a断層と判断される。	
315	314.71	292.44	※※※※※※※※※※		シルト岩	stf	淡青灰	100	13	13	315.63m~315.76m: シルト岩をブロック状に含む。	
316	315.63	293.31	※※※※※※※※※※		酸性凝灰岩	atf	淡青灰	100	51	93	315.98m: 厚さ約1.3cmのシームがある。 316.45m~316.47m: 酸性凝灰岩が分布する。 316.47m: 厚さ約1.0cmのシームがある。 317.20m~317.26m: 酸性凝灰岩が分布する。 317.60m~317.76m: 酸性凝灰岩が分布する。	
317					シルト岩	stf	灰黒	100	22	96		
318							100	43	86			
319	319.97	297.38	※※※※※※※※※※		酸性凝灰岩	atf	青灰	100	27	98	319.35m~319.41m: 酸性凝灰岩が分布する。 319.82m~319.87m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。	
320	320.19	297.59	※※※※※※※※※※		酸性凝灰岩	atf	青灰	100	46	81	320.19m: 見掛けの傾斜角約50°の方位を伴う不連続面がある。見掛けの鉛直変位量は約11.0cm以上。密着している。 320.30m~320.32m: 酸性凝灰岩が分布する。 321.23m~321.35m: 酸性凝灰岩が分布する。	
321					シルト岩	stf	灰黒	100	30	73	322.11m~322.17m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 322.58m~322.61m: 酸性凝灰岩が分布する。	
322							100	46	88			
323							100	29	89			
324							100	66	89	323.66m~323.70m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 324.32m~324.33m: 酸性凝灰岩をレンズ状に含む。		
325	325.25	302.33	※※※※※※※※※※				100	23	83	325.25m付近: ディライターの貫入面は見掛けの傾斜角約50°で密着している。		
326			++++				100	19	24			
327			++++		貫入岩	ダイヤ付	暗灰	100	22	49		
328			++++				100	10	10			
329			++++				100	17	52			
330			++++				100	17	52			

IT-66-e孔 地質柱状図(深度300m~330m)



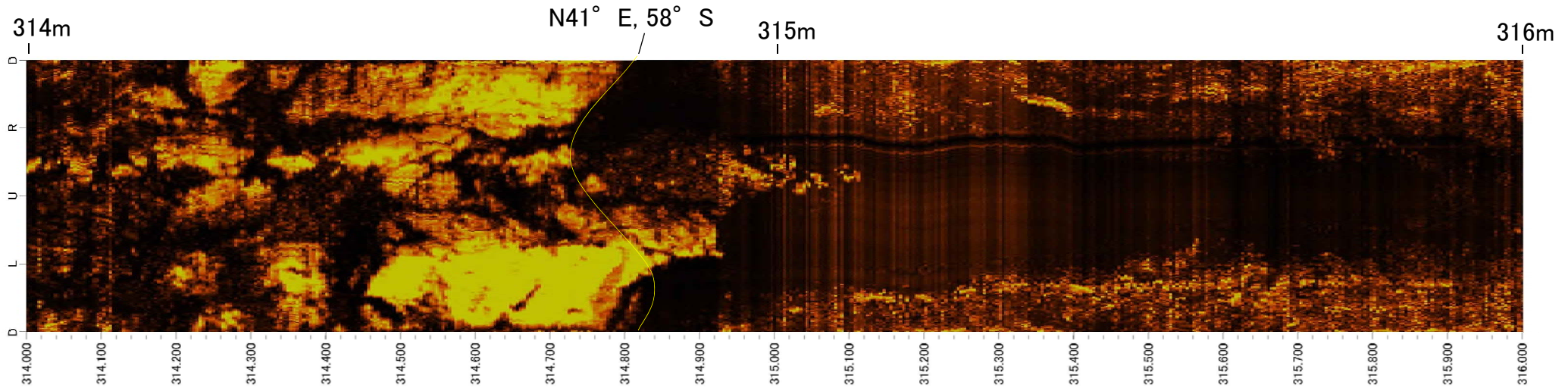
IT-66-e孔 コア写真(深度312m~323m)

- IT-66-e孔の深度315.63mにおいて、大間層の酸性凝灰岩とシルト岩との境界にdF-m1断層を確認した。
- 断層面は明瞭で、破碎幅は約66cm*である。

*: 酸性凝灰岩とシルト岩の接する部分では、破碎部は厚い傾向がある。
 注1) 本孔の全区間の地質柱状図及びコア写真は、第893回審査会合机上配布資料参照。
 注2) 柱状図記事欄の深度315.63mに記載している「dF-a断層」については、本編資料等ではdF-m1断層に該当する。

2.5 dF-m1断層の確認データ(9/9)

IT-66-e孔:dF-m1断層の方向性(ボアホールテレビユーア画像)



ボアホールテレビユーア画像



コア画像

- コア観察から314.71m～315.86mの破砕部は一連の断層破砕部であり、近傍のボーリングデータとの検討からdF-m1断層と判断される。
- 断層の方向性はボアホールテレビユーアから破砕部上端のN41° E, 58° Sで代表されると判断される。

dF断層系の活動性評価

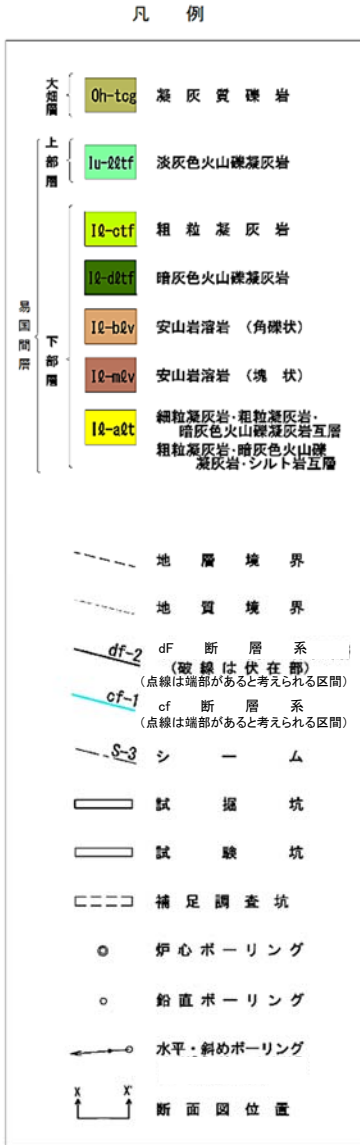
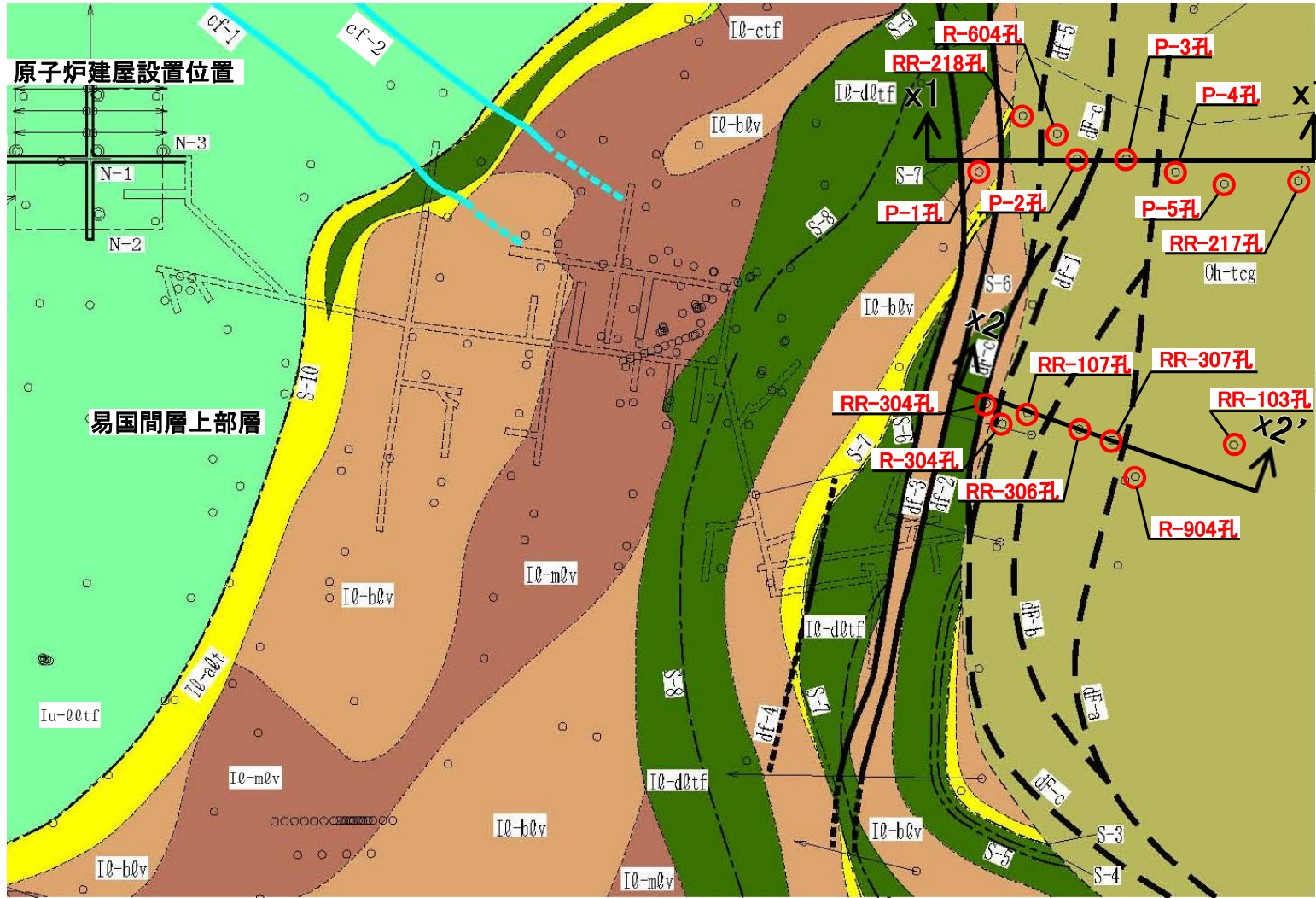
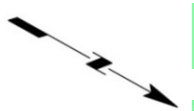
[本編資料2.2.2章に関する基礎データ]

- dF断層系と大畑層基底面との関係(P.2-51～P.2-66参照)



2.6 dF断層系の活動性評価(2/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(敷地北側の断面上のボーリング)



ボーリング位置図(T.P.-14m水平断面図)

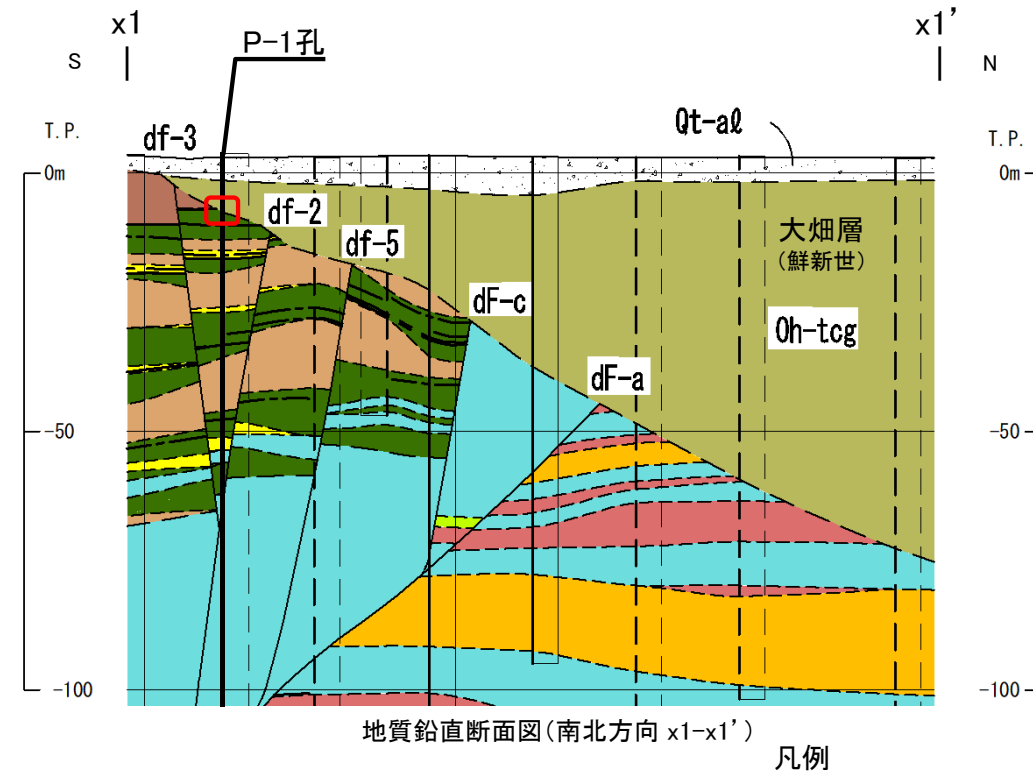
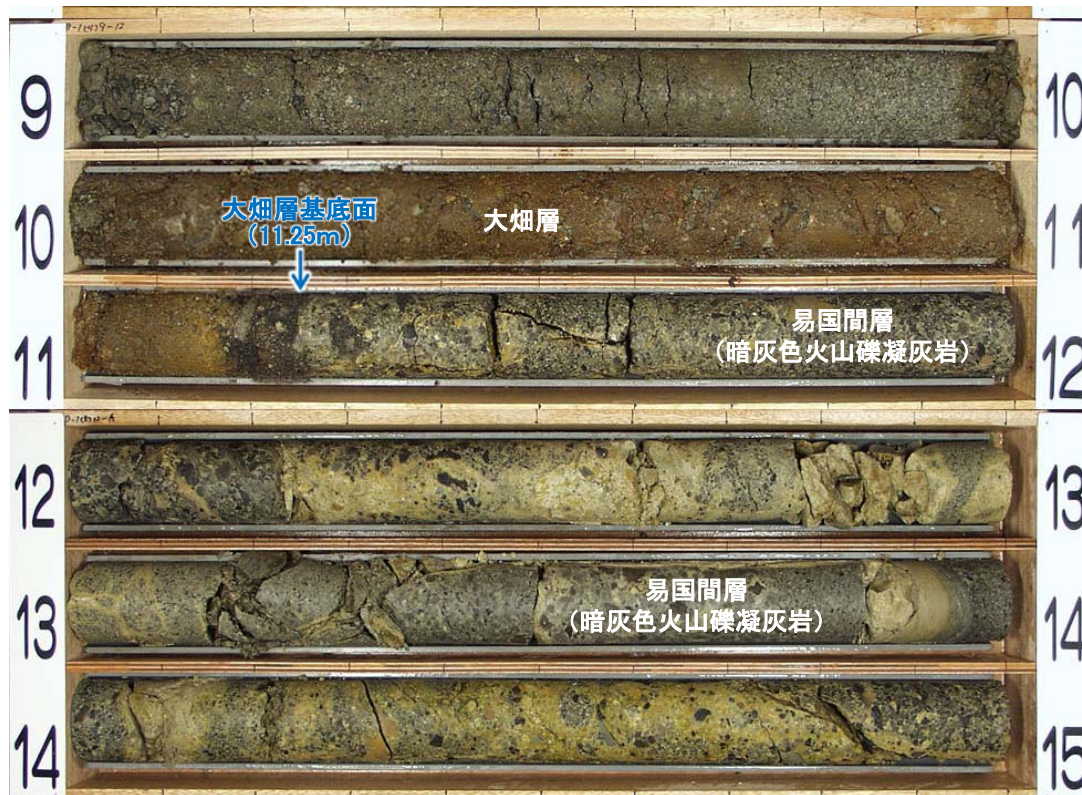
敷地北側の2つの断面(x1-x1', x2-x2')上のボーリングにおいて、dF断層系を不整合に覆う大畑層の基底面付近を調査した。



2.6 dF断層系の活動性評価(3/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(1/8):P-1孔

P-1孔(9m~15m区間)



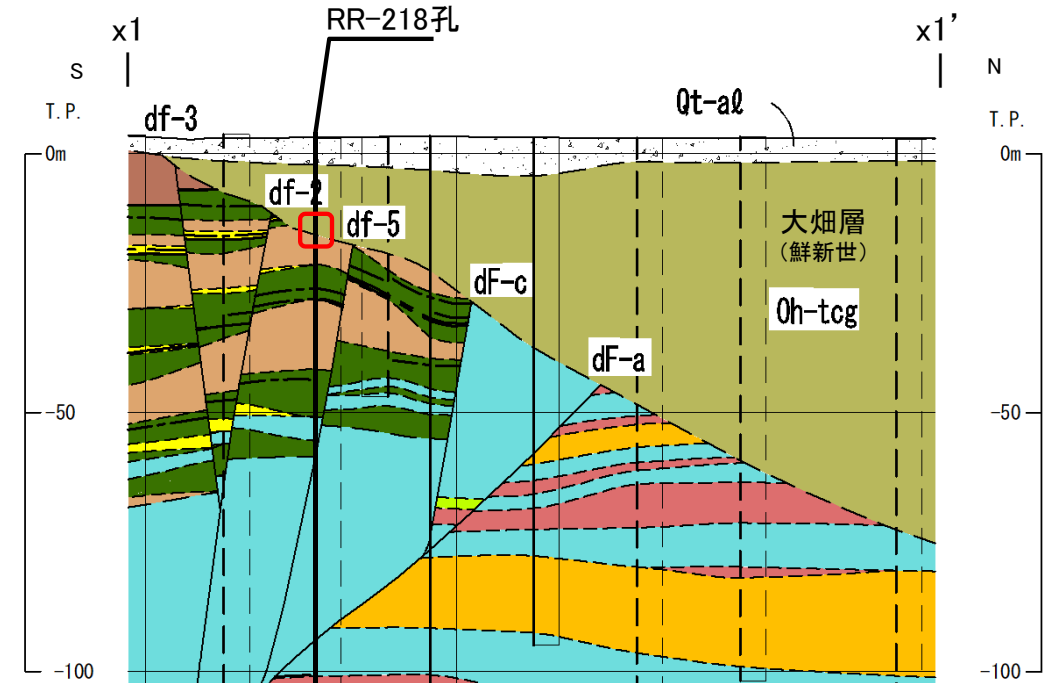
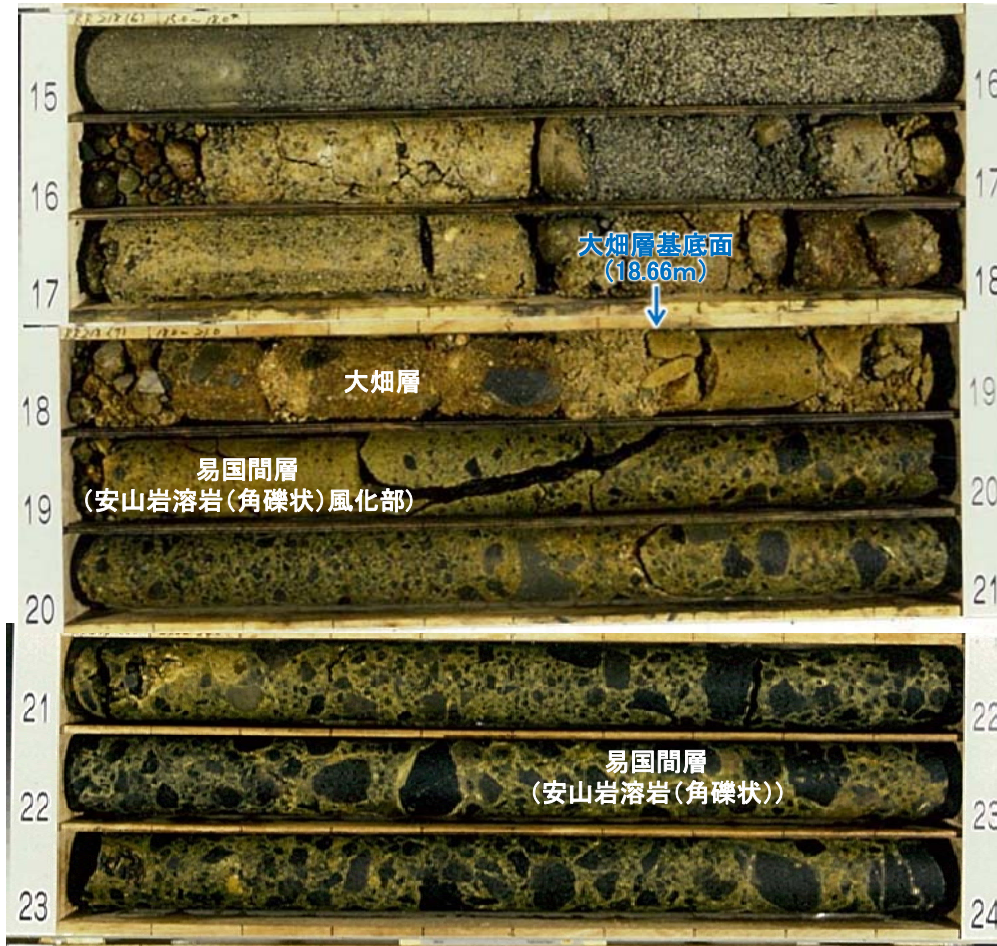
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のP-1孔では、深度11.25mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の易国間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(4/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(2/8):RR-218孔

RR-218孔(15m~24m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

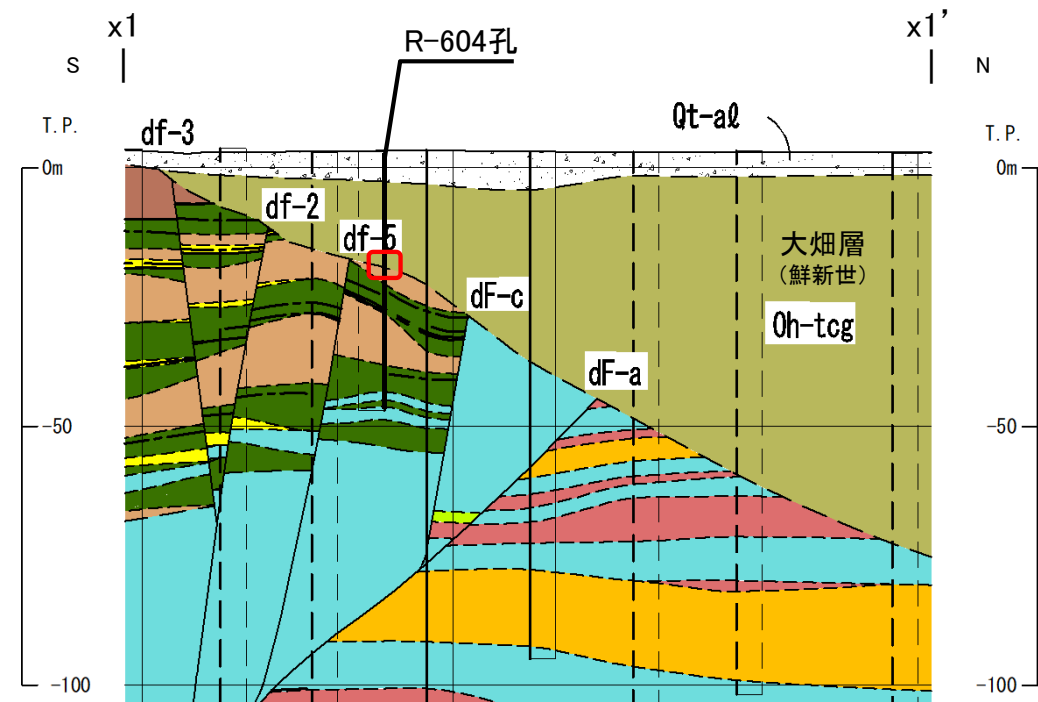
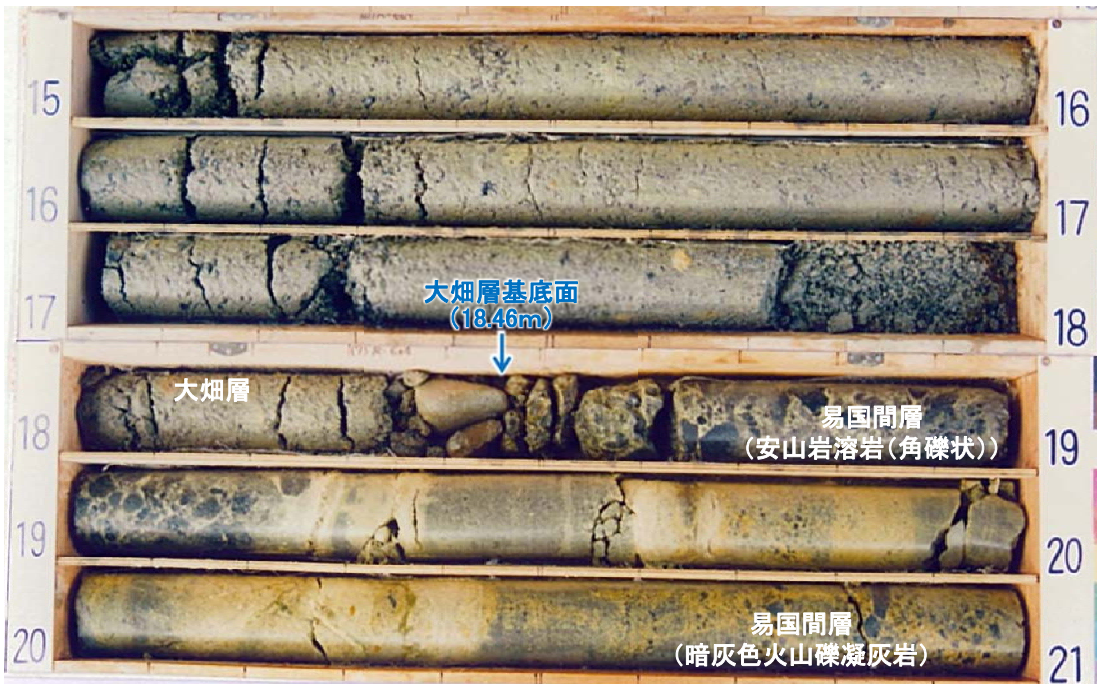
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のRR-218孔では、深度18.66mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の易国間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(5/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(3/8):R-604孔

R-604孔(15m~21m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

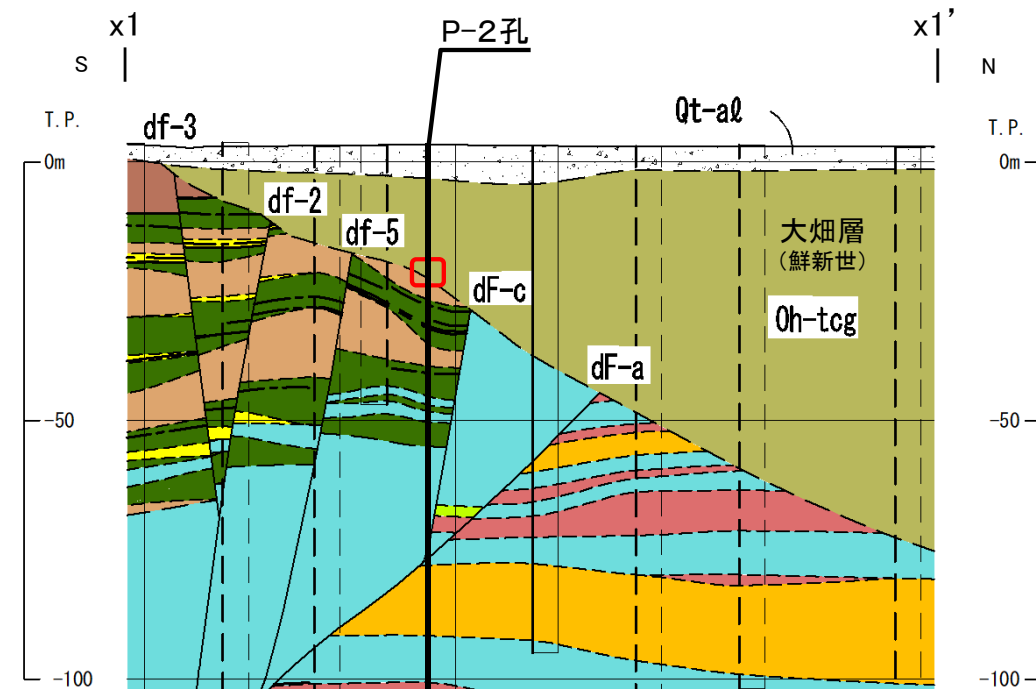
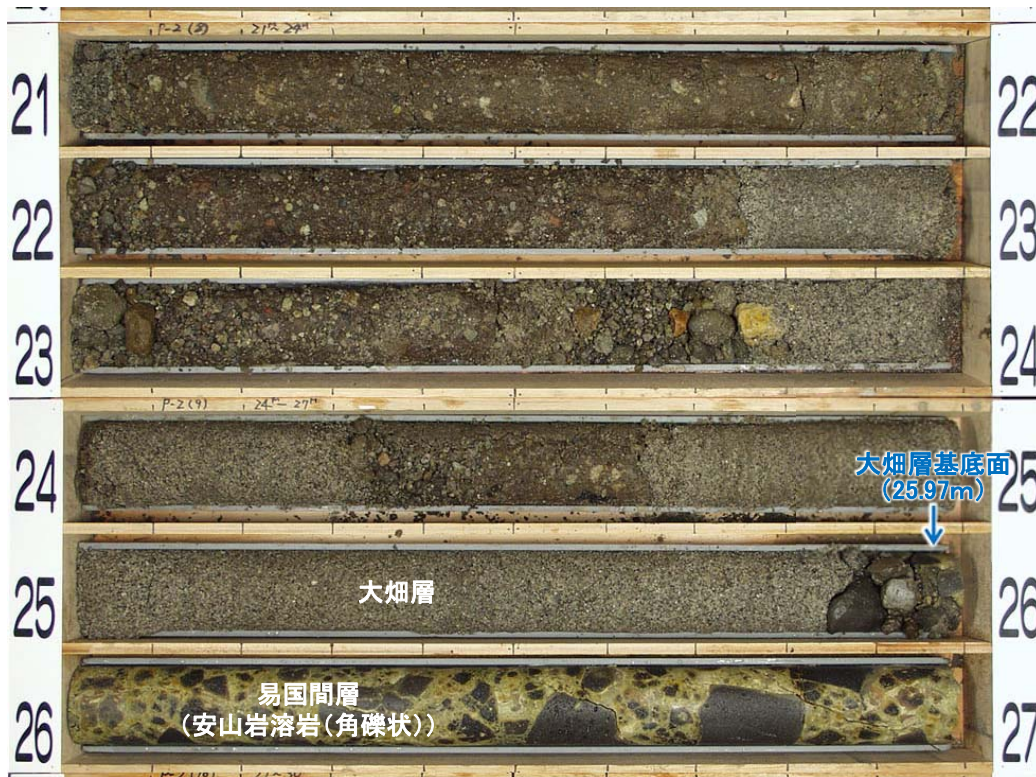
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のR-604孔では、深度18.46mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の易国間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(6/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(4/8):P-2孔

P-2孔(21m~27m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

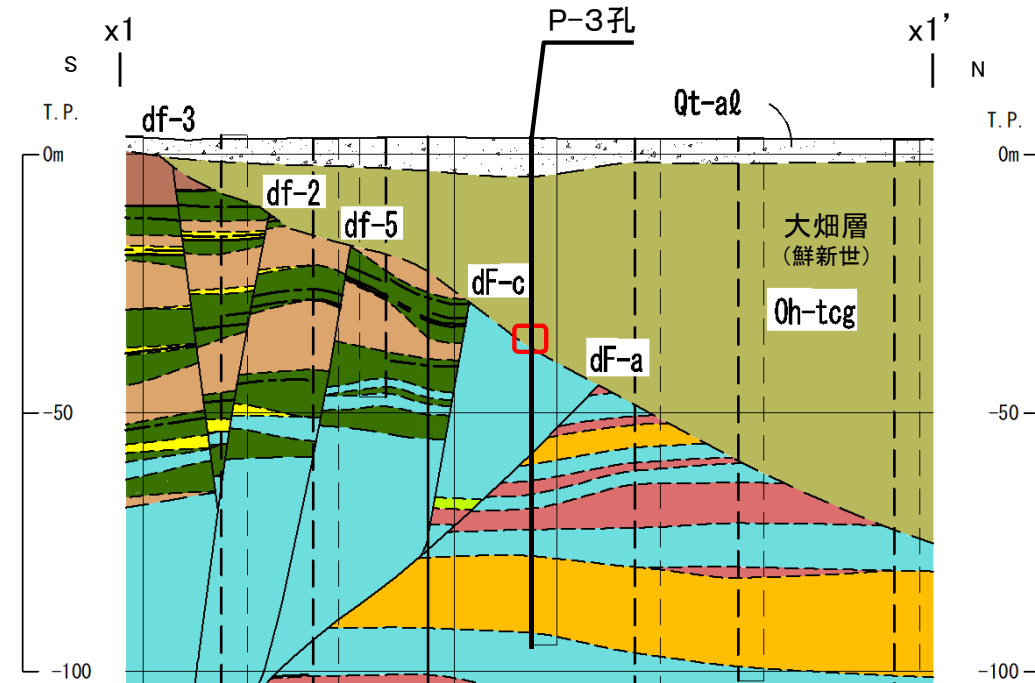
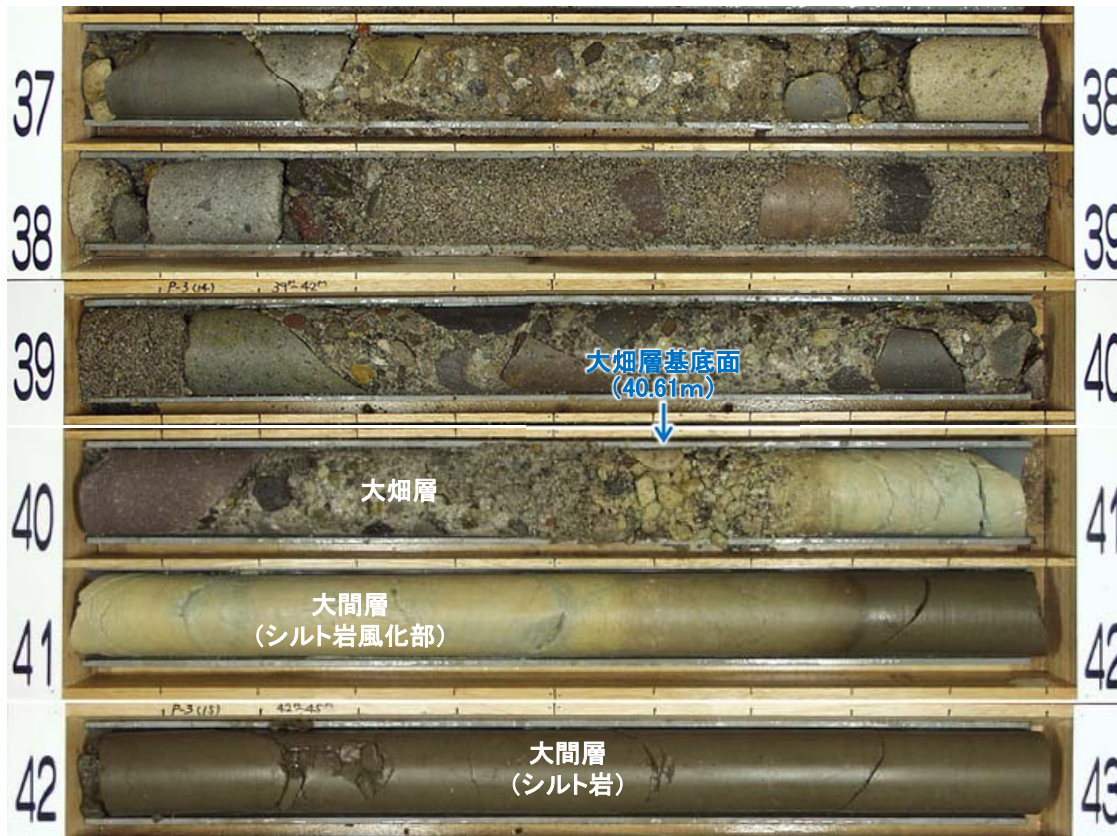
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のP-2孔では、深度25.97mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の易国間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(7/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(5/8):P-3孔

P-3孔(37m~43m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

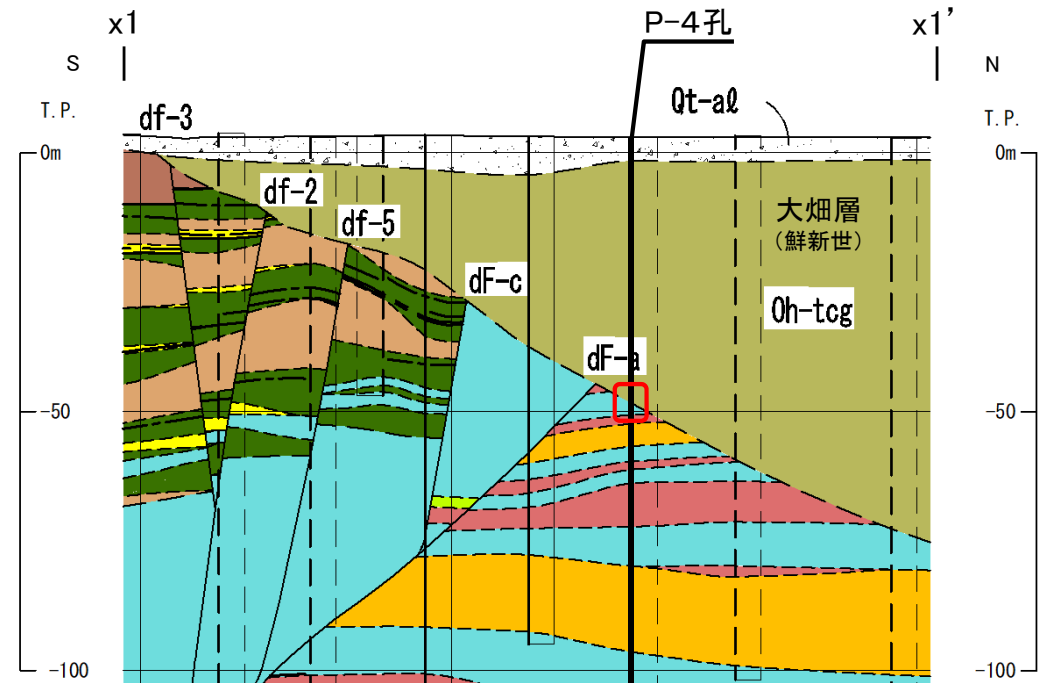
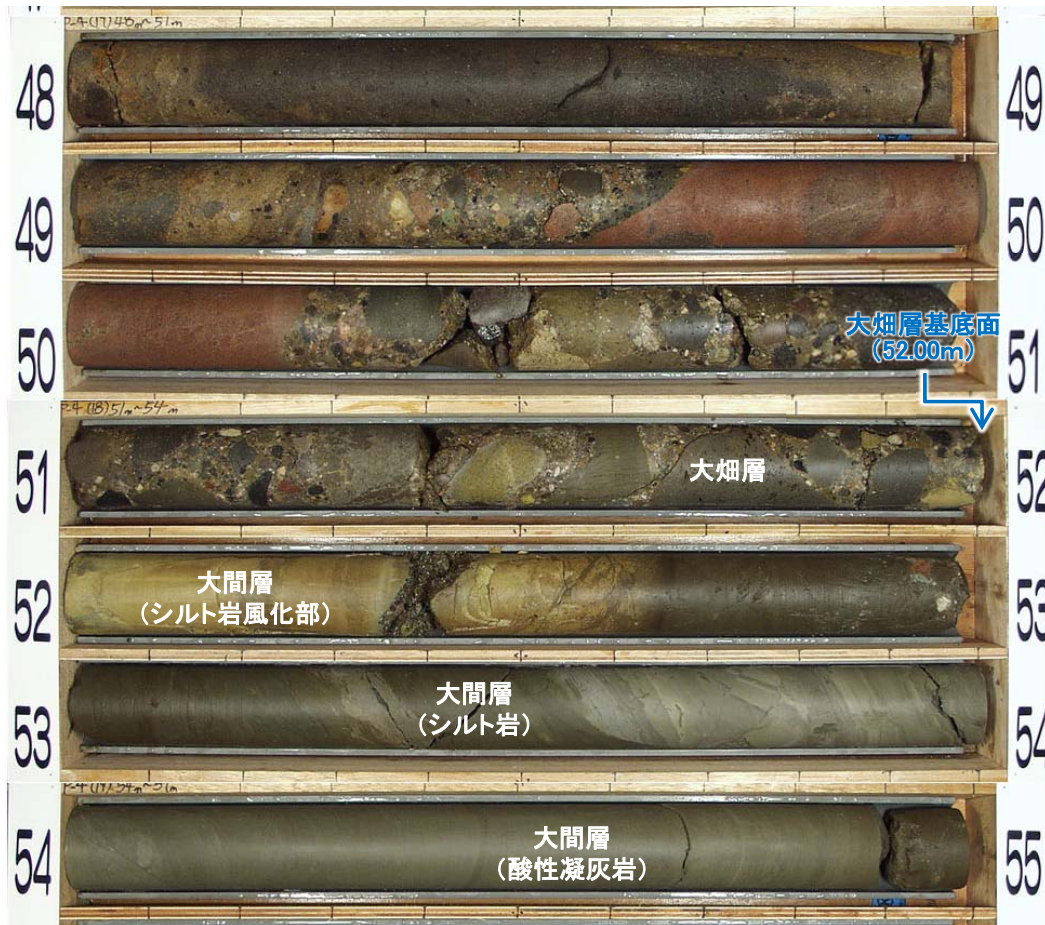
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のP-3孔では、深度40.61mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(8/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(6/8):P-4孔

P-4孔(48m~55m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

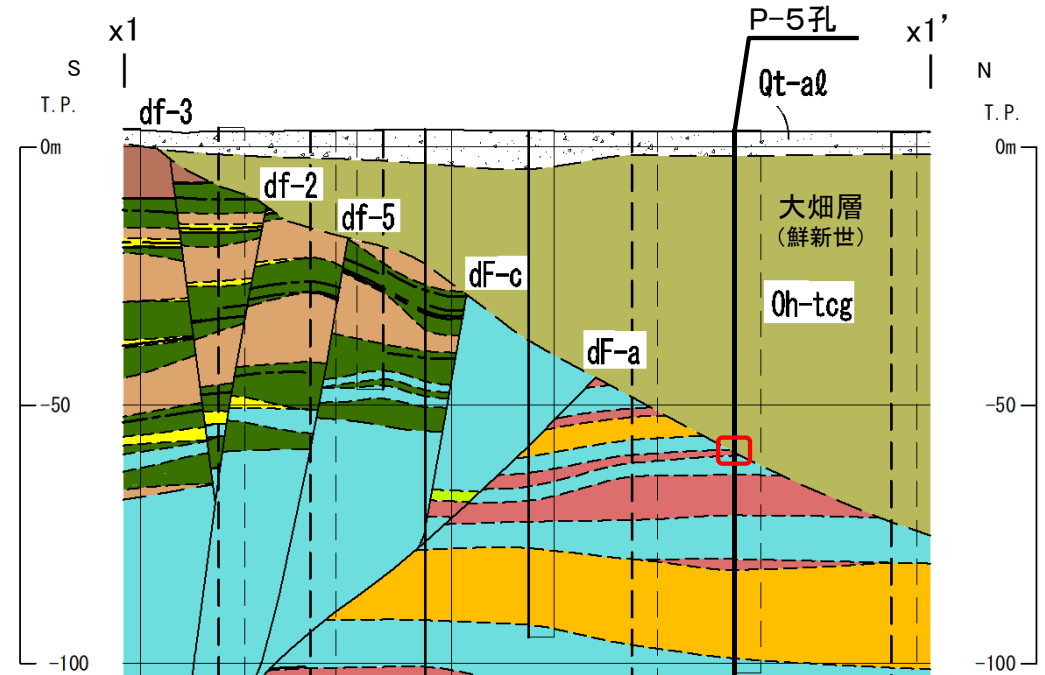
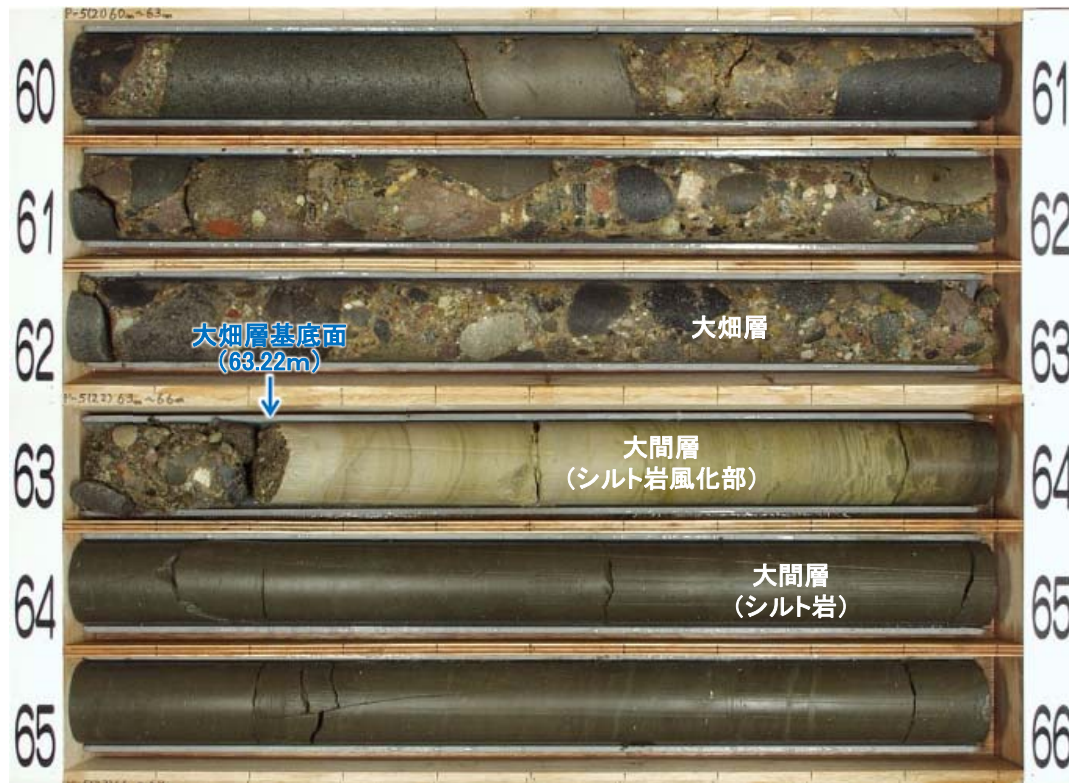
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のP-4孔では、深度52.00mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(9/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(7/8):P-5孔

P-5孔(60m~66m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

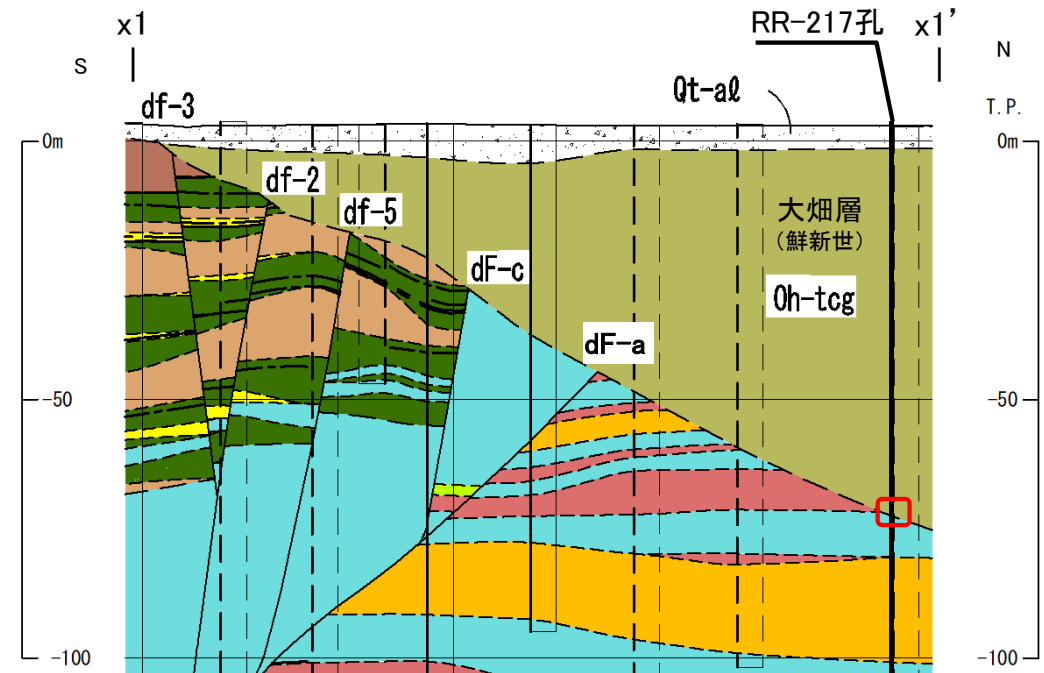
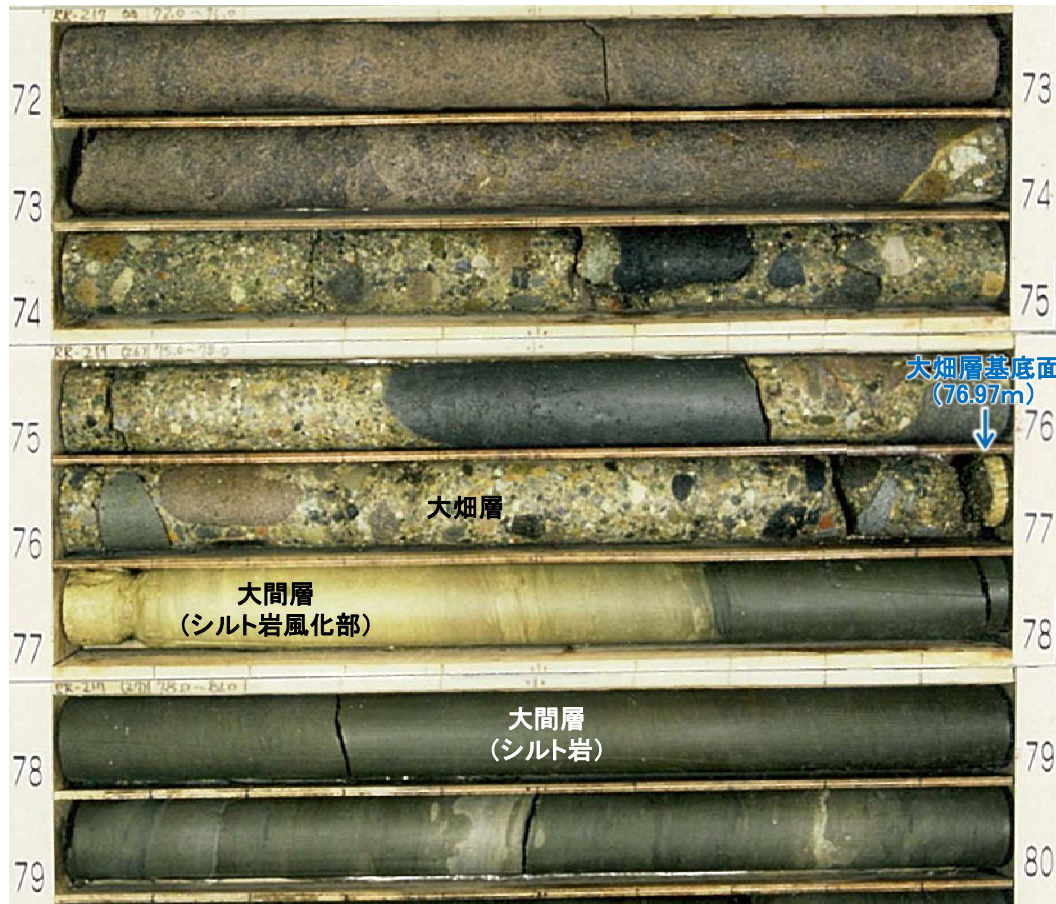
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のP-5孔では、深度63.22mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(10/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x1-x1'断面)(8/8):RR-217孔

RR-217孔(72m~80m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x1-x1')

凡例

コア写真区間

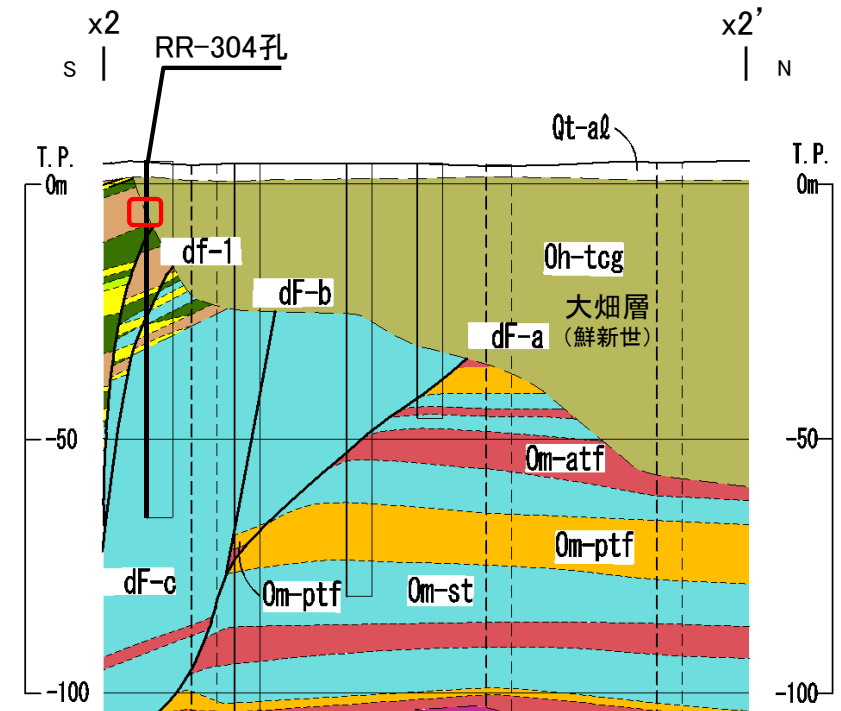
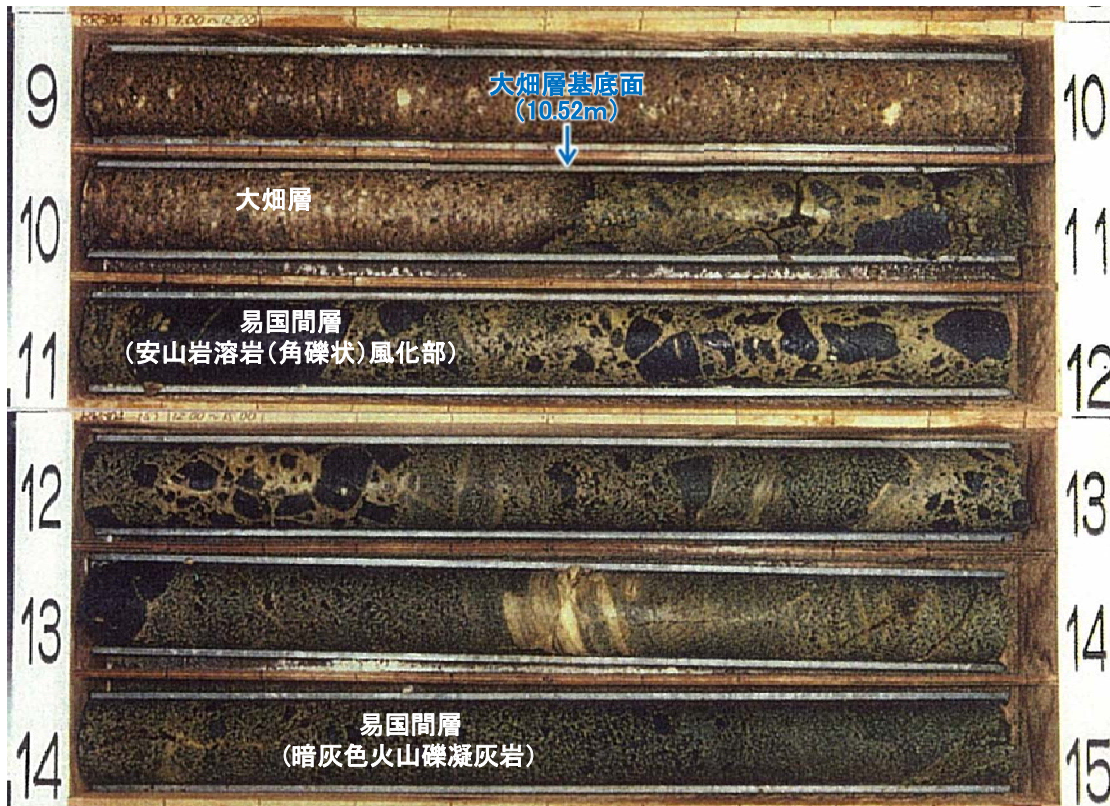
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x1-x1'断面上のRR-217孔では、深度76.97mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x1-x1'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(11/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2' 断面)(1/7): RR-304孔

RR-304孔(9m~15m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

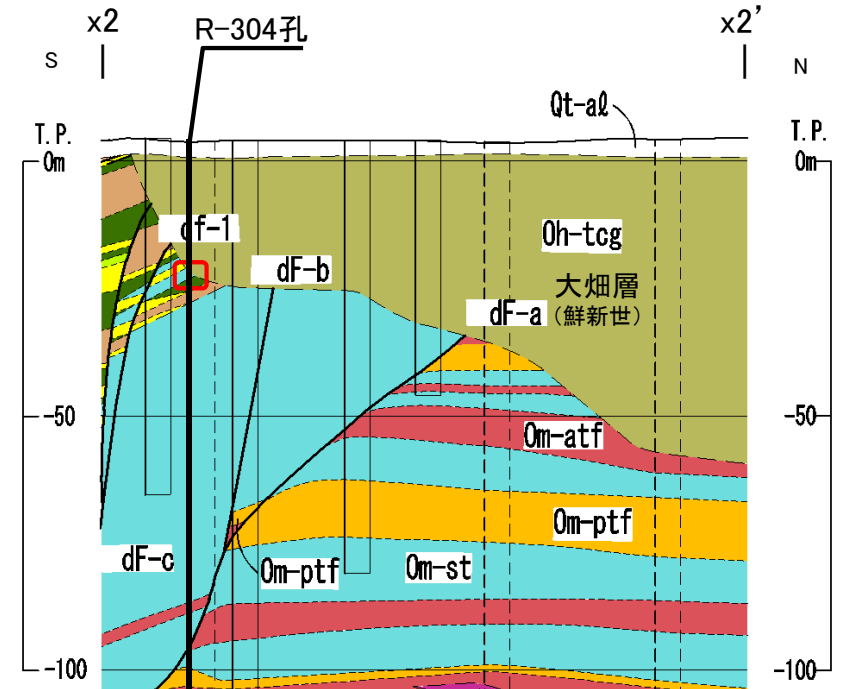
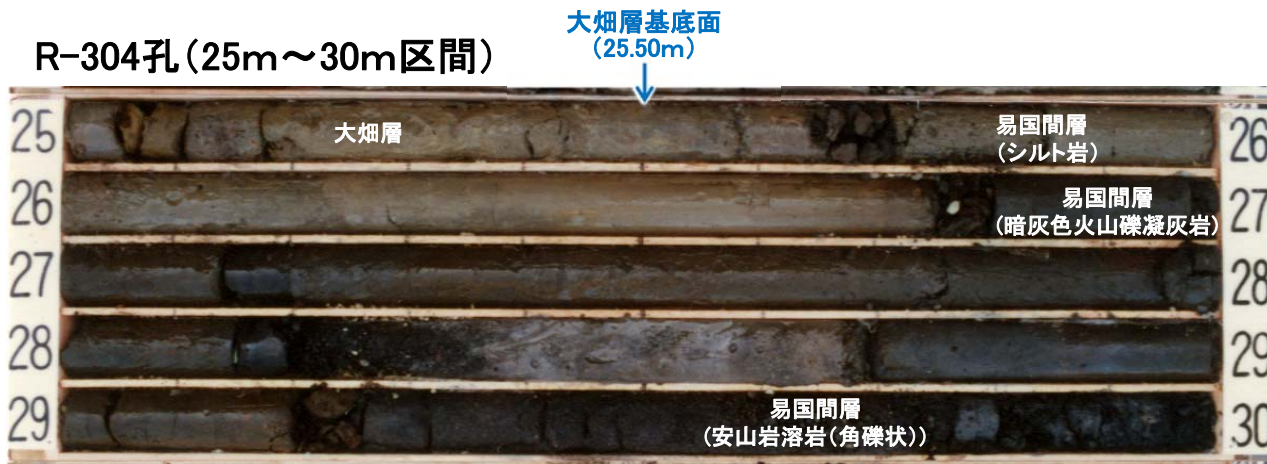
コア写真区間

注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2' 断面上のRR-304孔では、深度10.52mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の易国間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2' 断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(12/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2'断面)(2/7):R-304孔



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

コア写真区間

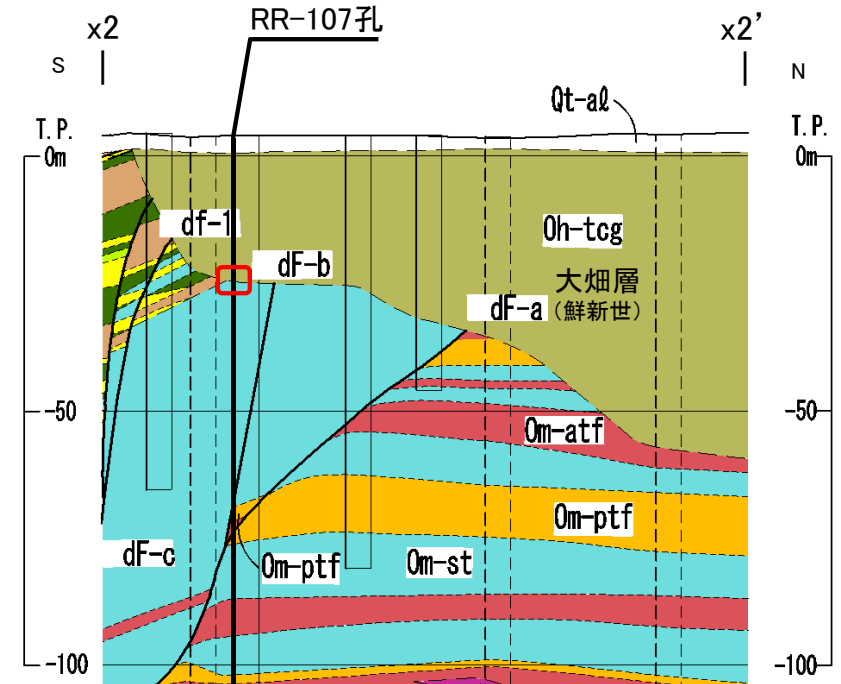
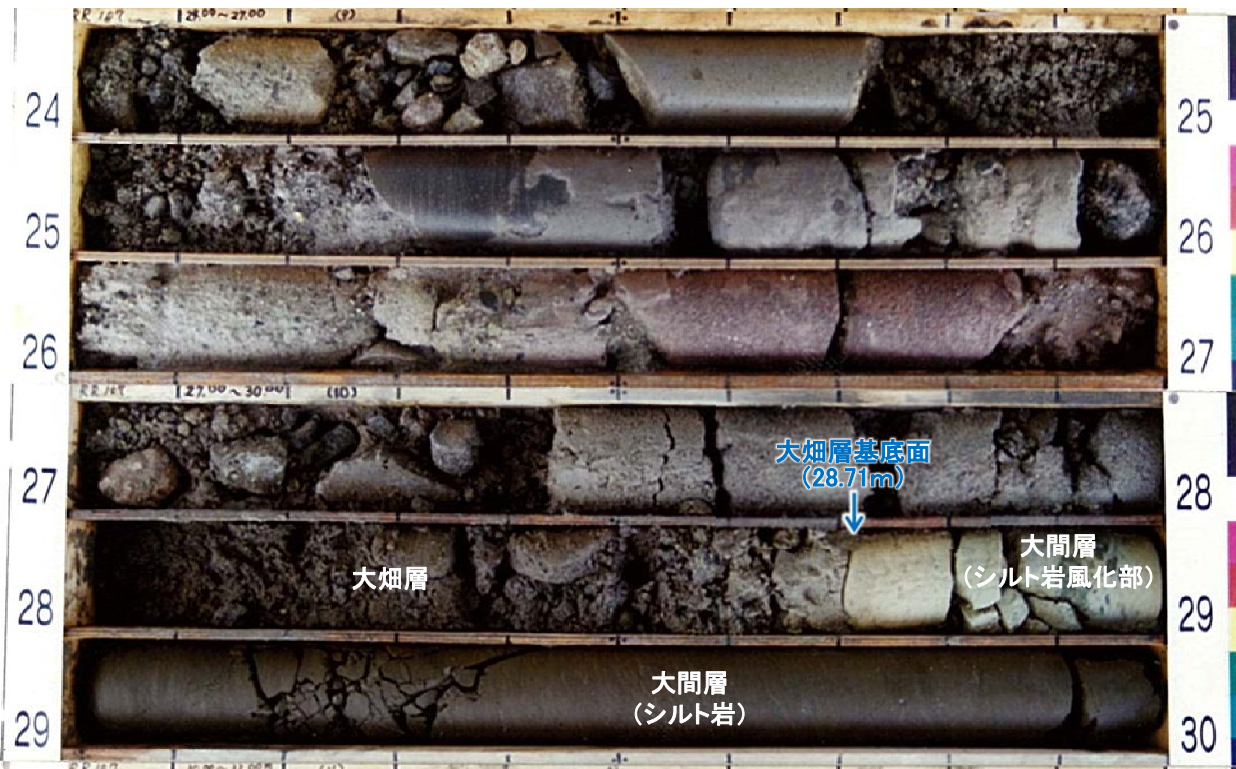
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2'断面上のR-304孔では、深度25.50mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の易国間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(13/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2'断面)(3/7):RR-107孔

RR-107孔(24m~30m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

コア写真区間

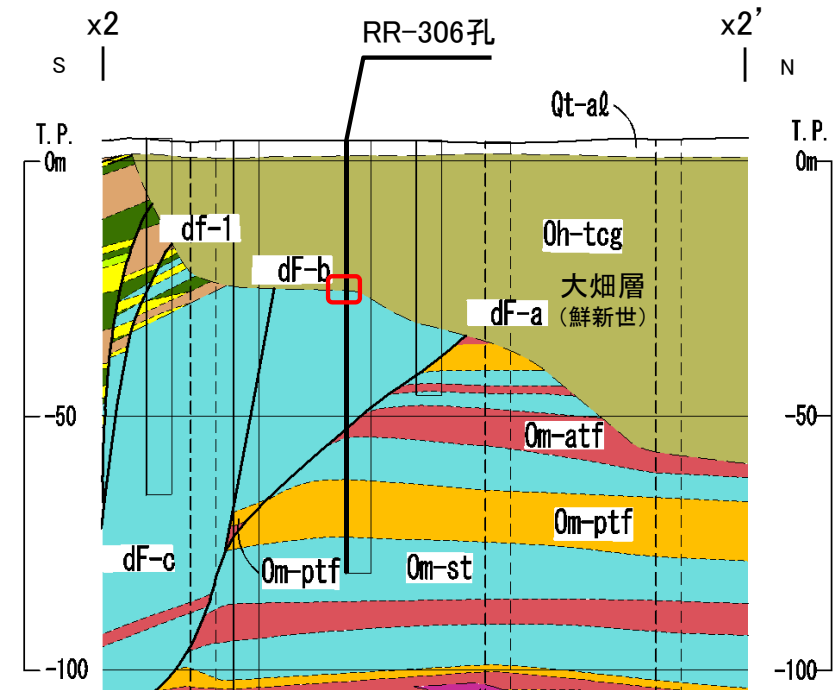
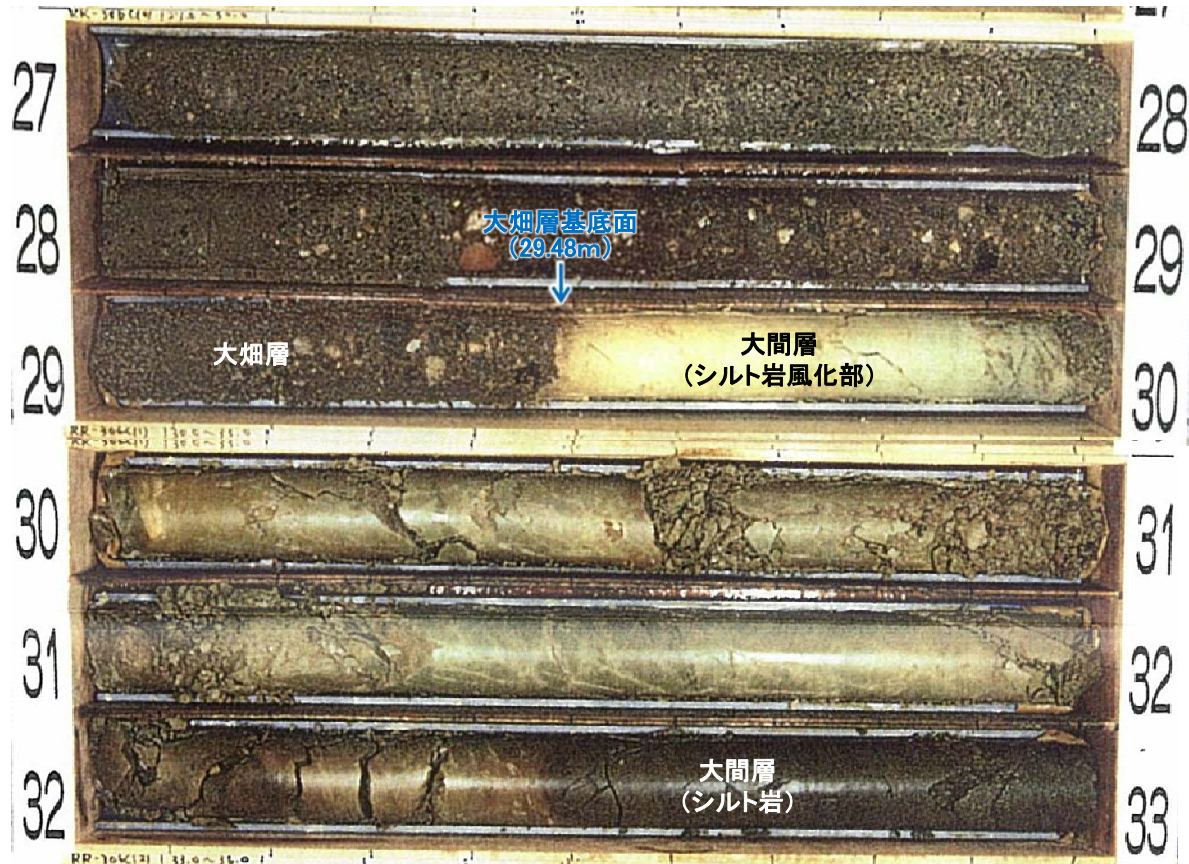
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2'断面上のRR-107孔では、深度28.71mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(14/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2'断面)(4/7):RR-306孔

RR-306孔(27m~33m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

コア写真区間

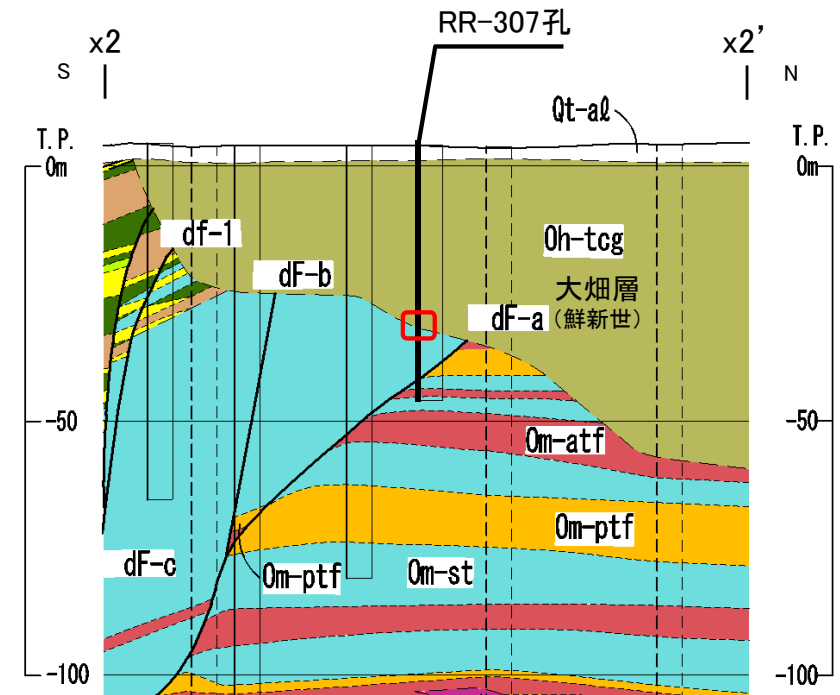
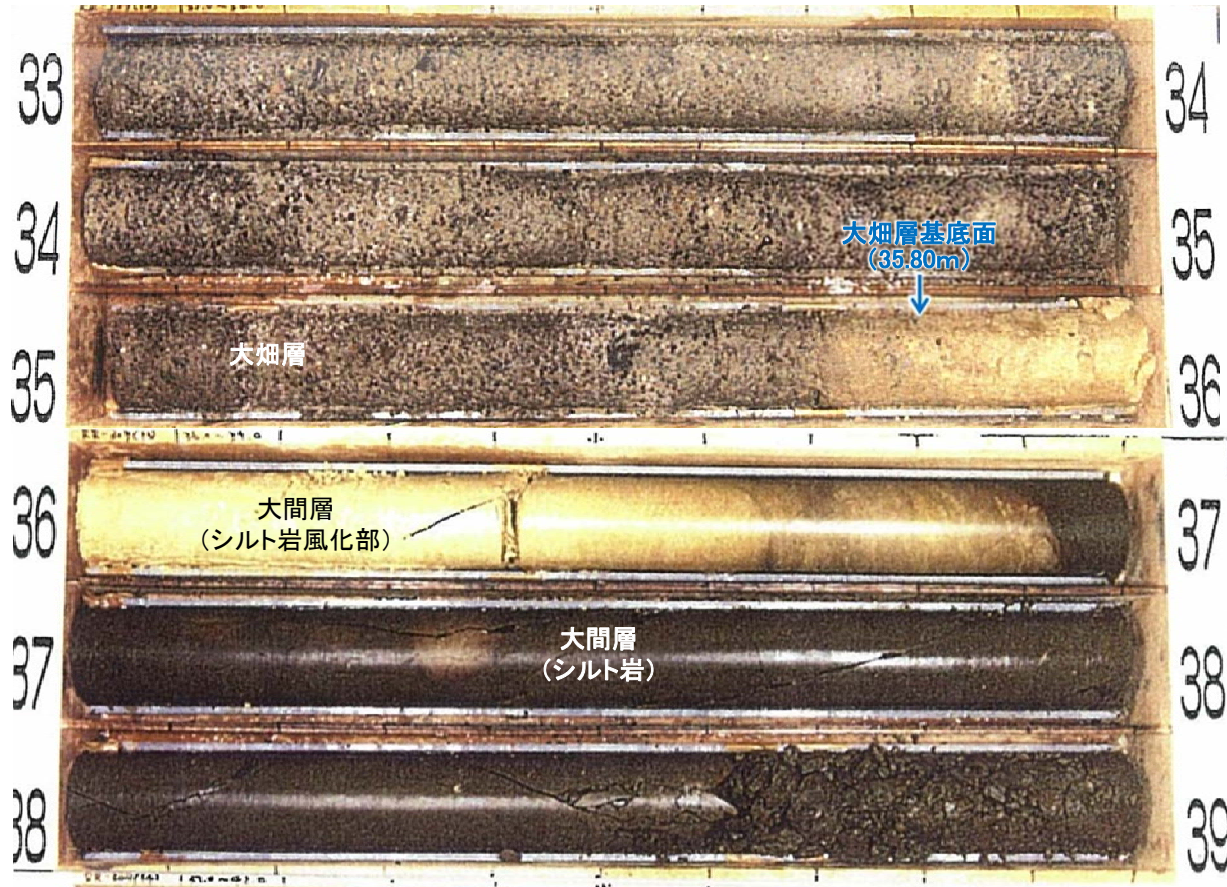
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2'断面上のRR-306孔では、深度29.48mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(15/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2'断面)(5/7):RR-307孔

RR-307孔(33m~39m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

コア写真区間

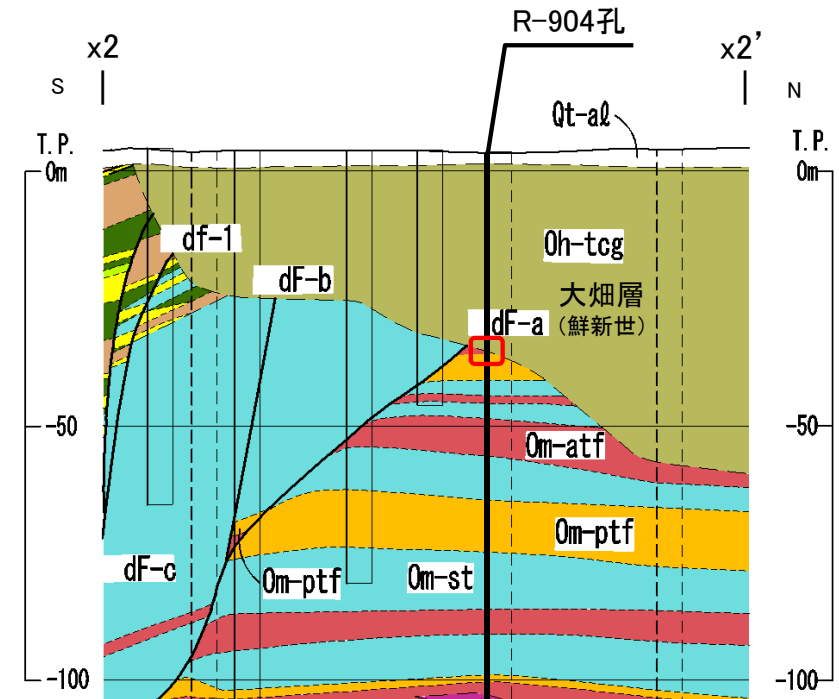
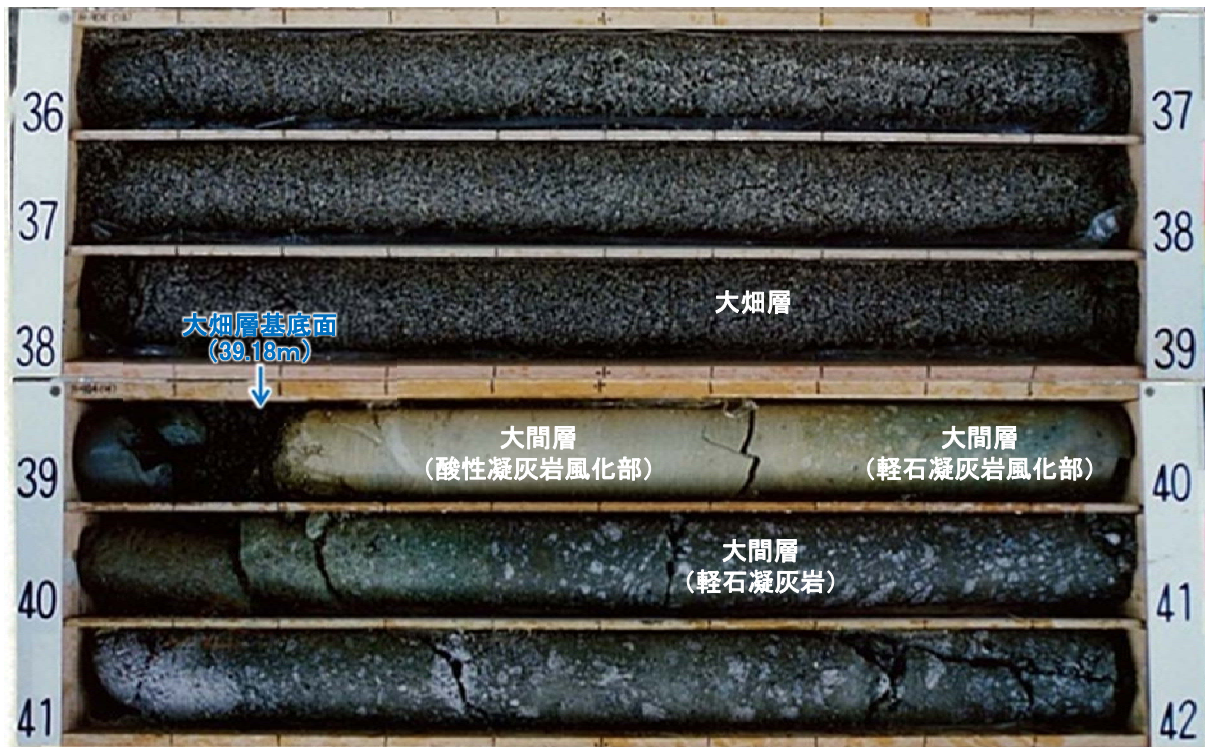
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2'断面上のRR-307孔では、深度35.80mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(16/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2'断面)(6/7):R-904孔

R-904孔(36m~42m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

コア写真区間

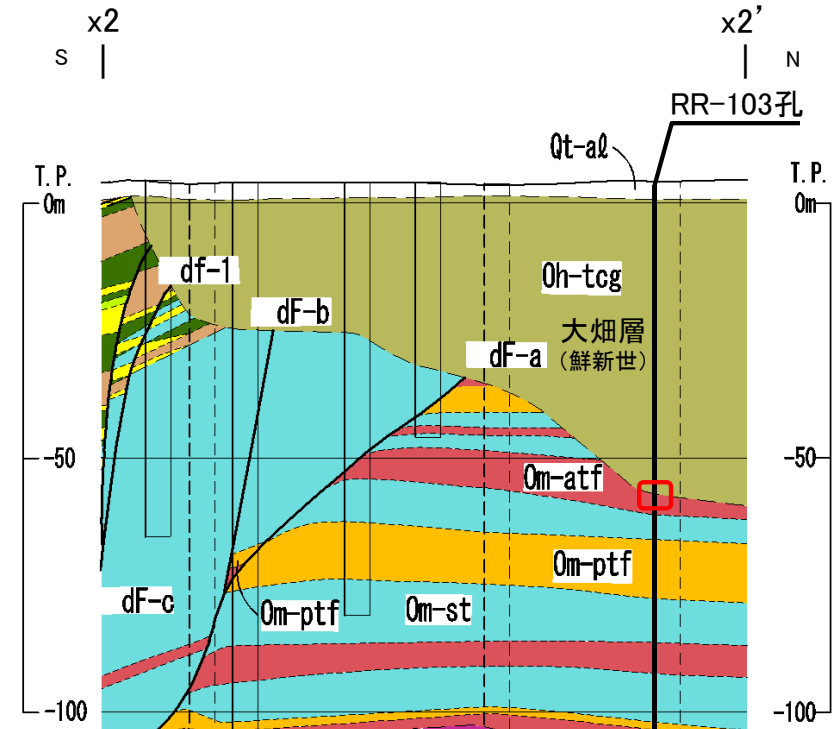
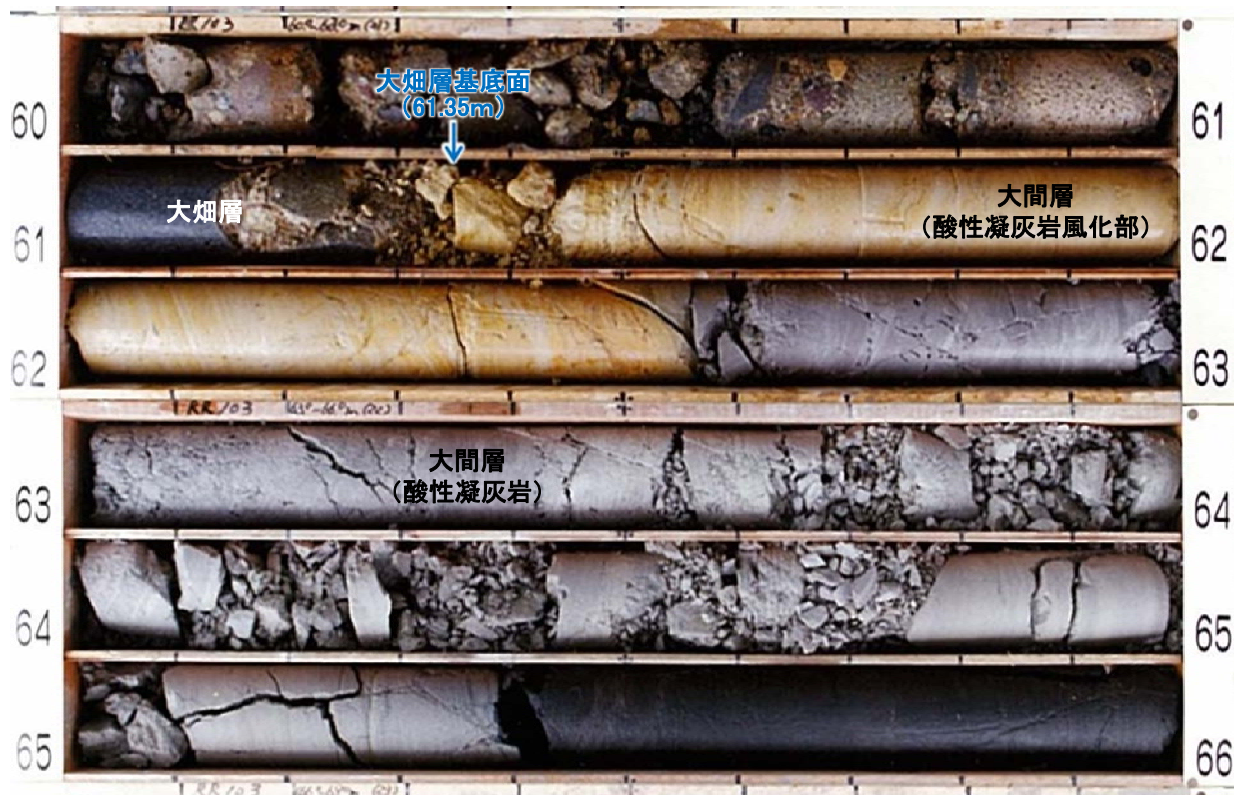
注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2'断面上のR-904孔では、深度39.18mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2'断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。

2.6 dF断層系の活動性評価(17/17)

dF断層系と大畑層基底面との関係(x2-x2' 断面)(7/7):RR-103孔

RR-103孔(60m~66m区間)



地質鉛直断面図(南北方向 x2-x2')

凡例

コア写真区間

注) 凡例は本編資料P.2-20参照。

- x2-x2' 断面上のRR-103孔では、深度61.35mに大畑層の基底面が認められる。
- 大畑層は下位の大間層を不整合に覆って分布する。
- x2-x2' 断面上のボーリング結果から、大畑層の基底面に断層を示唆する南側落下の形状は認められない。